全国いか加工業協同組合

全国いか組合報

No.628

令和2年10月1日発行

スルメイカ　FAO名(英)：Japanese flying squid　市場名：マイカ, マツイカ, ムギイカ, トンキュウ, ガンゼキ (地方名)

ML 30cm。外套膜は筋肉質で外套膜の背中線上に暗色の縦帯がある。鰭は幅広の菱形である。漏斗溝には縦溝があるが、側部のポケット様襞はない。漏斗軟骨器が⊥型。腕の大吸盤角質環には鋭い歯があるが、基部寄りの縁は平滑。雄の右Ⅳ腕の先端部はやや偏圧され櫛歯状の肉嘴列となる。触腕の大吸盤には鋭い円錐形の歯と低い板状の歯とが交互に並んでいる。最南端の記録はホンコン。北限はカナダの記録がある。

新編 世界イカ類図鑑 P.189より抜粋（奥谷喬司著／全国いか加工業協同組合刊）［写真：堀川博史］

組合報第628号　目次

令和2年（2020年）10月

全いかニュース

1. 組合からの関連情報
・ジャパンインタナショナルシーフードショー出展報告…… 1
2. いか関連新聞記事（抜粋） …… 4
3. 食品産業動向調査結果（日本政策金融公庫） …… 9
4. 食の志向等に関する調査結果（日本政策金融公庫）…… 20

統　計

I. 2020年7月分　全国イカ水揚集計表（全漁連）…… 28
II. いか類輸入　国別通関実績　2020年8月　―財務省貿易統計より― …… 29
(1) 冷凍いか（除くもんごう）
(2) 乾燥・塩蔵・塩水漬け
(3) 調整品
III. 農林水産統計 …… 33
1. 産地水産物流通統計　令和2（2020）年7月
(1) 月別上場水揚量・価格
(2) 累積上場水揚量・価格
(3) 漁港別水揚量・価格
2. 冷凍水産物流通統計　令和2（2020）年7月
(1) 月間入・出庫量及び月末在庫量

第22回「ジャパン・インターナショナル・シーフードショー」
出展報告概要

1）開催の日時　　2020年9月30日(水)～10月2日(金)
10:00～17:00　※ 最終日のみ16:00まで

2）会場　　東京国際展示場 “東京ビッグサイト” 南展示棟

3）主催　　一般社団法人 大日本水産会
4）事務局　　エグジビション テクノロジーズ 株式会社
5）出展企業数　　300社(前回840社)

6）来場者数

9月30日(水)	3,112名	(前回:10,664名)
10月1日(木)	3,151名	(前回:13,504名)
10月2日(金)	3,163名	(前回: 9,404名)
合　計	9,426名	(前回:33,572名)

＊コロナの影響により、展示スペースが1／3程度であった。

7）出展ブース　　A-33　3小間(2mx3)

8）当ブース訪問者

9月30日(水)	791 名
10月1日(木)	864 名
10月2日(金)	866 名
合　計	2,521 名

9）出展組合員数　　15社　　出展展示商品数　　52商品

No	ご出展企業名
1	オルソン株式会社
2	株式会社布目
3	株式会社古清商店
4	株式会社道水
5	三印三浦水産株式会社
6	トナミ食品工業株式会社
7	株式会社竹田食品
8	株式会社イチヨ水産
9	有限会社マルナマ食品
10	山栄食品工業株式会社
11	井上食品株式会社
12	カモ井食品工業株式会社
13	まるか食品株式会社
14	株式会社スグル食品
15	小島食品工業株式会社

10）出展に関しての所感

① 全体感：今期はコロナの影響で、通常年と比較して1／3程度の規模であった。
実質の出展企業数、来場者数もほぼそれに比例的な状況であったが、食品展示会の開催が行われていなかった現状に反映してか、バイヤー等の直接的な購買権限者の来場頻度が比較的高かったように感じた。

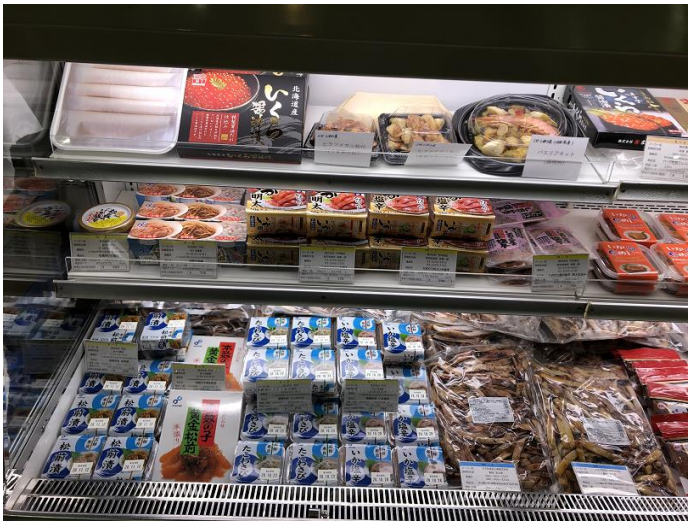
② 全いかコマの来場者数：今期初めての出展であり、予想出来ない部分も多かったが、当初予定の最大訪問者数（5000名）、試食者数（3000名）に対しては、概ね半数の実績に終わった。
しかし商談数については、予定の150件（50件／日）を大きく上回り229件の実施となった。

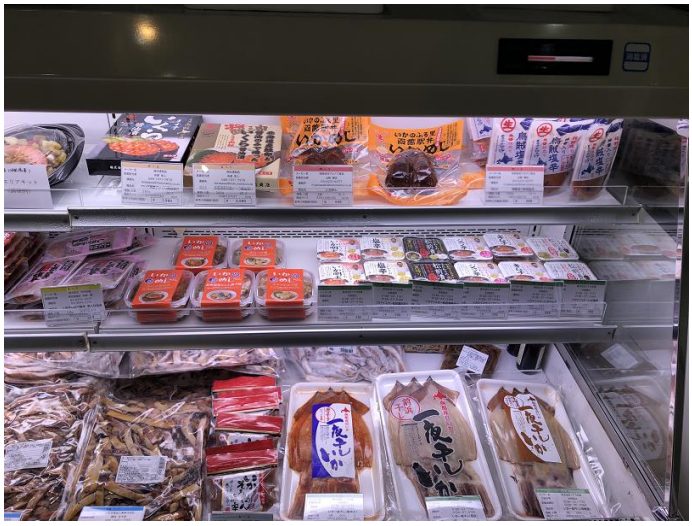
③ 内容について：通常の展示会と比較しても、少ない機会に商品をしっかり見極めようとする視点の客層が多かったように感じた。試食については総じて反応が良く、コロナ仕様の蓋つき試食皿の悪影響は特になかった（セルフ試食よりもむしろ取り付きは良かった）。

④ 今後の課題：展示のみより、明らかに社員を派遣し試食を積極的に行った企業の商談機会は多く、成果も上がったものと思われる。
展示のみの場合は想定以上に商品情報等の提供の期待に応えられなかった印象であった。
次年度は、コロナの状況にもよるが、各社1名は商品説明、試食提供を行う専属の社員の派遣が望ましいと思われる。反面人数が多すぎてもブースが混乱するので、各社1名程度が良い。
また、オープン価格表示の商品については、目安となる価格が知りたいという声が多かった。

おいしいイカを さらに美味しく
全国いか加工業協同組合

おいしいイカを さらに美味しく
全国いか加工業協同組合





おいしいイカを さらに美味しく
全国いか加工業協同組合

全国いか加工業協同組合

＜いか関連　１０／１０～　新聞記事の概要＞

日本経済新聞（９月１０日）

スルメイカ水揚げ１割増　卸値も２割安く

今年８月までのスルメイカの全国水揚げ量は前年比の１割増。卸値も２割安い。秋以降も前年を上回る漁獲が期待されている。その背景には大きく２つの理由が考えられる。ひとつは産卵海域の環境の好転（海水温や海流など）。もうひとつは EEZ 内での違法操業の減少。まだ資源量は低水準ではあるが、今後の回復に期待が高まっている。

みなと新聞（９月１５日）・水産経済新聞（９月２３日）

中国が北朝鮮海域でスルメイカ漁再開か

新型コロナの影響で停止していた中国漁船の北朝鮮海域でのスルメイカ操業が９月上旬、一部再開されたもようだと「ラジオ・フリー・アジア」がレポートした。

中朝国境域では１日、複数隻の中国漁船の船舶自動識別装置（ＡＩＳ）信号が確認されたが、北朝鮮水域に入ったと観察されるタイミングでこの信号の検出が消えた。中国漁船が追跡を避けるために、意図的に北朝鮮海域ではＡＩＳの電源を切ったまま航行、北朝鮮海域を出た時点で電源を入れていると観察される。

週刊水産新聞（９月１６日）

AR 不漁期脱却か　今期７割増　魚体も良好

AR マツイカの漁獲に回復の傾向が見受けられている。漁期は１～７月で３～４年で

豊漁と不漁を繰り返しており、２０１６年以降不漁期が続いていた。今シーズンの漁獲は３５万トン（前年２０万トン）と７割増産。魚体も３００～４００ｇと良好。今年から豊漁期に移ったとしたら来期は５０万トン程度まで増えるかもしれない。

みなと新聞（９月１６日）

船凍アカイカ　夏漁６６００トン超見込み　漁好転、大型中心にまとまる

北西太平洋で操業している船凍アカイカ夏漁が終盤を迎えている。大型を中心に好調な漁模様となっており、燃料が続く下旬ころまで操業を継続。各船とも満船で帰港する見通しで、水揚量は２５００トン以上が期待されている。８月までの１航海目で水揚げした４１００トンと合わせて６６００トンは超えるとみられる。

着業当初は漁模様が振るわず、一部の船が着業前に日本海のスルメイカ漁へ切り替えるなどもあったが、８月下旬から好転。６／１０尾、１１／１５尾の大型サイズを中心に、好漁が続いている。数量は６６００トン超とみられ、（昨年６９１４トン）数量は前年並みだが、産地で越年在庫を抱えていることもあり、前年平均（１ケース４２３５円）を大きく下回り、耳取り開きで３０００円を割る場面もありそうだ。

みなと新聞（９月１６日）

冷凍スルメイカ１９年輸入 ロシア産４０倍

輸入の冷凍スルメイカ類は近年、主力の中国産が安定して搬入される他、ロシア産が伸長している。２０１９年の総計は前年比９％増の８万トン超だった。

ここ３年間の動向を見ると、中国物は年間輸入量が４・１万～４・５万トン水準で安定。商材は遠洋漁場の南米アカイカや、スルメイカの代替商材ともなる南米沖のアルゼンチンマツイカ、北朝鮮水域のスルメイカなどだ。ロシアからの輸入量は１９年、前年比４０倍の４８５２トンまで伸びた。

米国産、マツイカ中心に倍増

また、資源管理を徹底する米国ではカナダマツイカ（カナダイレックス）が東海岸で安定して漁獲されている。１９年の米国からの輸入量は、カナダマツイカを中心にカリフォルニアロリーゴを含め２・３倍の６６０６トンだった。

２０年１～７月では合計の輸入量が前年同期比２％減の３万６７６４トン、キロ単価が５％高の５１４円となっている。国別では中国物が平均単価７％高（キロ６４４円）で数量が３％減の２万１７６０トン。また、南米アカイカなどのチリ物は単価が３８％安（２３５円）となり、輸入量が８・４倍の５７１１トンに伸びている。

みなと新聞（９月１９日）・水産経済新聞（９月２９日）

露スルメイカ１割減５３００トン　１５日　南クリルでトロール漁

ロシアのトロール船による北海道に接続する南クリル海域のスルメイカ操業が８月３０日に始まった。着業漁船は２２隻でスタート、現在、大型船３隻を含めて３９隻まで増加している。スルメイカ操業のトロール船団は歯舞群島から色丹島の北の海域を漁場としている。操業開始から９月１５日までの漁獲量は５２９４トンで、前年同期の６０８９トンを１３％下回っている。２０１９年のロシア・トロール漁船は同海域操業で約１万７４００トンのスルメイカを漁獲しており、日本の昨年のロシア産冷凍スルメイカ輸入量は前年比４０倍の４８５２トンに増えた。

週刊水産新聞（９月２５日）
海外イカ原料　南米イカの生産が回復　買付環境好転の兆し
輸入イカについて相場の軟化など買付環境に好転の兆しがみられている。
アメアカは序盤不調が聞こえていたが、ペルーでの漁獲が漁期半ばより好転。年間生産量は昨年の５０万トンレベルを確保出来そうとのこと。
マツイカも今シーズンの漁獲は３５万トン（前年２０万トン）と７割増産。現地価格も１５％下がっているがまだ下がりきってはいない状況らしい。
他方、これから本格化するロシア産スルメイカの動向もさらなる供給増が見込まれている（今期は２万トン以上？）。

みなと新聞（９月２６日）
生鮮スルメイカ　主要港６割増 32000 トン　1～24 日太平洋側で水揚げ好調
生鮮スルメイカの水揚げが順調だ。全国主要港の水揚量は前年同期比６３％増の３１８７トン。主要港の青森・八戸や宮城・石巻では、前年同期を上回るペースで水揚げが進んでいる。同期間の浜値は前年同期比２～３割安のキロ４８５円となっている。
　主な漁場は太平洋側。八戸や石巻、岩手・宮古の沿岸域にできている。石巻港には１尾２００グラムの釣物、同１２０グラムの底引網物を主体に１日当たり２０～５０トンのペースで揚がる。同港の１～２４日の水揚量は前年同期比５・３倍の５８５トン。宮古港は１１・９倍の５８１トン、八戸港は５％増の１１４８トンだった。
　日本海側では能登沖に滞留していた群れが北上し、９月下旬から大和堆―北大和堆、新隠岐堆の北側に漁場ができている。北海道西部の沿岸では１尾２４０～３００グラムを主体に漁獲が進む。

みなと新聞（９月２９日）・水産タイムス（１０月５日）
太平洋スルメイカ好漁遠く　秋冬来遊増も資源低位　水研機構
水産研究・教育機構が２９日発表した長期漁況予報によると、１０～１２月の国内太平洋岸では、スルメイカの来遊量が不漁だった前年を上回る海域が多そうだ。ただし、「２０１０年代中盤までと比べ、漁獲努力量当たりの漁獲量（ＣＰＵＥ、資源量の目安となる）が低いままであることには変わりない」（同機構浮魚資源部）。好漁は期待薄な環境だ。

常磐－三陸など前年超
　水温条件の悪い根室海峡―オホーツク海では来遊が前年を下回るが、北海道東太平洋海域、津軽海峡―道南海域、常磐―三陸海域では上回る見通し。ただし、道東太平洋海域では漁場形成は散発的になる予報だ。
　また、常磐―三陸では１０カ所で調査したうち１点で漁獲があったのみで、

前年の漁獲なしより改善したとはいえ、「依然として低水準」（同機構）。
　同機構などの昨年度の分析によると、太平洋側の主力である冬生まれのスルメの個体群は、１４年の７１万トンから１４万トンにまで減少した。　国内太平洋側の漁獲量も、０７年以降７万～１６万トンあったものが減って、１８年には１・７万トンとなった。

冬場の水温環境改善か

　だが１９年の太平洋側の漁獲は２・４万トンに改善。原因として、稚イカの生き残りに重要な冬場の生息場が生存に適した水温になったなどの見方もある。

みなと新聞（１０月６日）・水産経済新聞（１０月６日）

いか釣り協　違法操業船取り締まりを国に要請

全国いか釣り漁業協会の重義行会長らは２日、山口英彰水産庁長官を訪ね、イカ釣漁業の操業確保に関する要請書を手渡した。中国漁船が北朝鮮水域でスルメイカを違法に大量漁獲していることを踏まえ、中国政府に対し北朝鮮への制裁を定めた国連安保理決議の完全履行、違法漁船の取り締まりを関係国に要請するよう訴えた。また、日本のイカ漁業者がロシア水域で操業する際、漁業者側の費用で同国の監督官船をチャーターする必要があることに触れ、今年は約３０００万円のチャーター費のねん出が難しく、日本のイカ釣漁船はロシア水域内操業を見送らざるを得なかったという。重会長は「自国の取り締まりを自国で行うことは当たり前。ロシアと公平な取り締まり経費（負担）のバランスの交渉をしていただきたい」と求めた。

水産経済新聞（１０月７日）

中国漁船が急増　大和堆周辺取締り　昨対３．６倍（２５８６隻）

９月３０日現在で退去勧告を行った延べ隻数は２５８６隻と昨年の３．６倍に急増している。昨年は北朝鮮船が中心であったが、今年は状況が一変し、中国船が８月以降に急増しているという。今年度は取締強化で監視船の隻数も増やしていることから、
監視の目が多くなったことも隻数増加の要因のひとつではあるとしている。

みなと新聞（１０月８日）

９月スルメイカ 魚体前年上回る　石川県水産総合センター

石川県水産総合センターは９月 15～22 日にかけ、調査船白山丸でスルメイカ分布量などを調査した。日本海中央部（大和堆周辺海域）でイカ釣操業を実施。「前年同期を上回ったが、過去５年平均を下回った」とした。
ＣＰＵＥは３・６～３０・７尾で、全調査点の平均ＣＰＵＥは１７・４だった。不漁だった前年同期の平均１３尾を上回ったが、過去５年同時期平均の１８・

６尾は下回った。
スルメイカの魚体サイズの指標となる外套長の平均値は２２・２センチで、前年の１９・１センチおよび過去５年平均の２１・１センチを上回った。

食品産業動向調査結果

１　食品産業の景況について
２　新型コロナウイルス感染症拡大の影響について
３　国内産地との取引について

調査要領

調査時点　令和２年７月１日
調査方法　調査票による郵送アンケート調査
調査対象企業

公庫取引先を含む全国の食品関係企業　６，８３５社
有効回収数　２，７７１社　（回収率：４０．５％）

〈内訳〉	食品製造業	１，７７３社
	食品卸売業	６８５社
	食品小売業	２２７社
	飲食業	８６社

※景況判断のため、アンケート結果からDI値を算出。
DI(Diffusion Index = 動向指数)とは、「増加する（良くなる）」と回答した企業の割合から「減少する（悪くなる）」と回答した企業の割合を差し引いた数値。

詳しい調査結果を当公庫ホームページ（https://www.jfc.go.jp/）に掲載しています。
トップページから「刊行物・調査結果」→「農林水産事業」→「食品産業動向調査」の順でご覧ください。

＜調査に関するお問い合わせ＞
日本政策金融公庫　農林水産事業本部　情報企画部 TEL 03-3270-5585

注：図表において、四捨五入の関係上、合計が一致しない場合があります。

令和２年９月

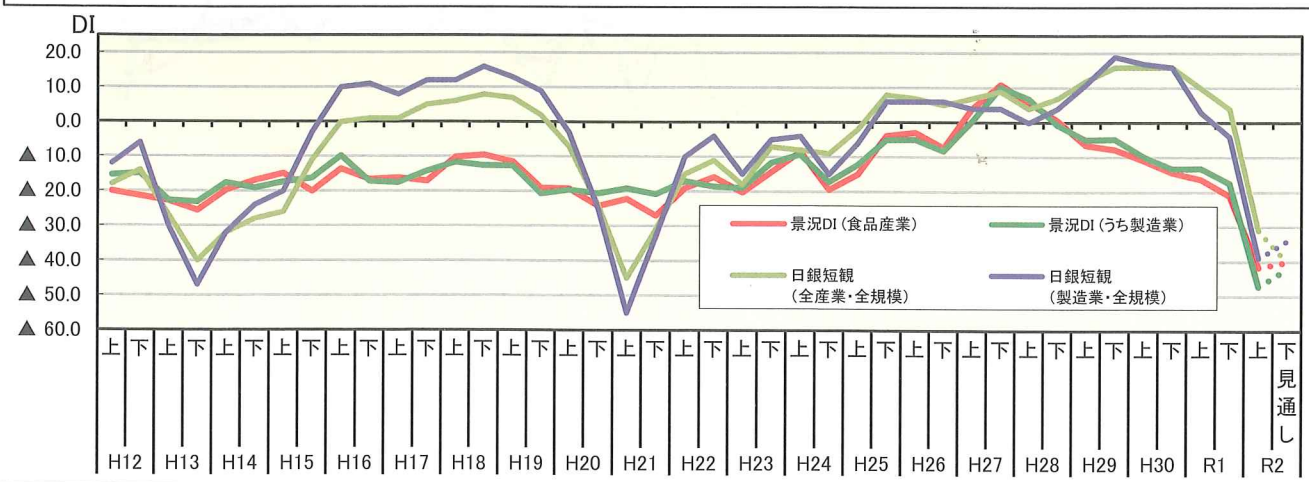
日本政策金融公庫
農林水産事業

この冊子に使われている紙は、日本の森林を育てるために間伐材を積極的に使用しています。

1 食品産業の景況

景況DI（景況DIは、売上高DI、経常利益DI、資金繰りDIを単純平均して算出）

【実績】
○ 令和2年上半期の食品産業の景況DIは前回（令和元年下半期）調査より20.6ポイント低下し、▲41.6となった。
【見通し】
○ 食品産業の景況DIの令和2年下半期見通しは、1.6ポイント上昇し、▲40.0となる見通し。

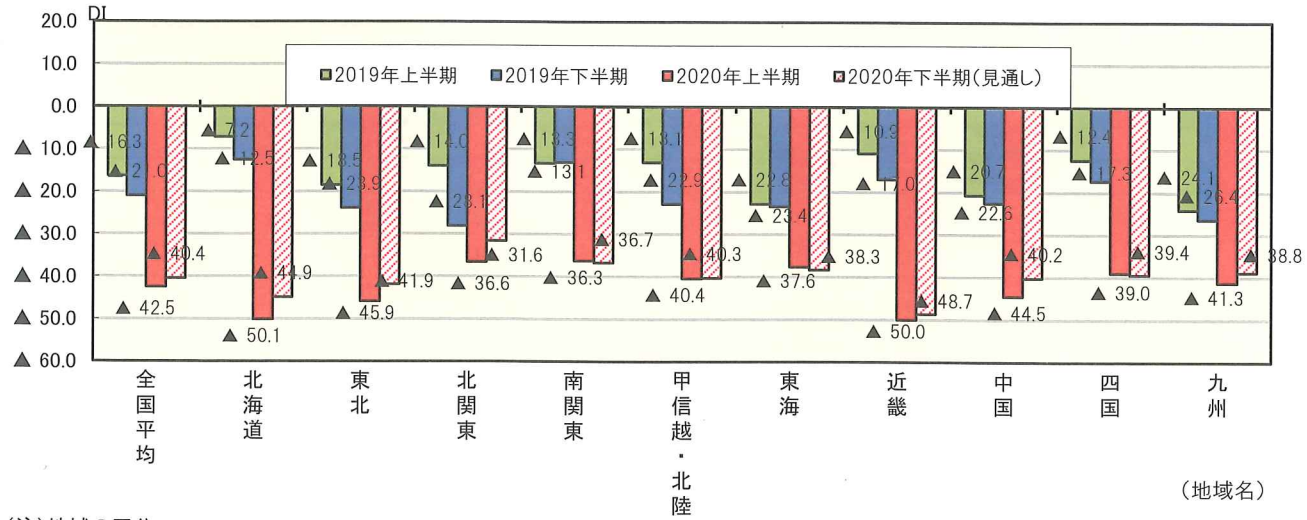


半期	平成27年上半期	平成27年下半期	平成28年上半期	平成28年下半期	平成29年上半期	平成29年下半期	平成30年上半期	平成30年下半期	令和元年上半期	令和元年下半期	令和2年上半期	令和2年下半期見通し
食品産業	4.0	11.0	5.9	0.6	▲ 6.5	▲ 7.7	▲ 10.8	▲ 14.3	▲16.3	▲ 21.0	▲41.6(−20.6)	▲40.0(+1.6)
うち製造業	0.3	10.2	6.9	▲ 0.7	▲ 4.9	▲ 4.7	▲ 9.7	▲ 13.2	▲13.1	▲ 17.4	▲47.1(−29.7)	▲42.0(+5.1)

（ ）は前回との差

地域別景況DI

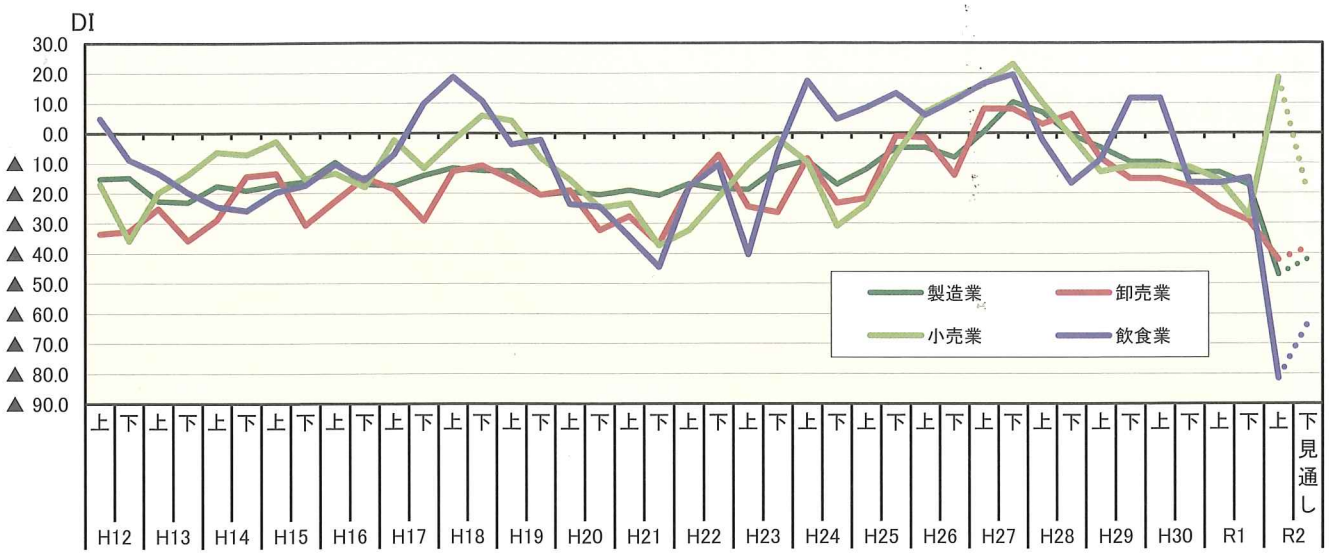
【実績】
○ 令和2年上半期の地域別DIは、すべての地域が▲36.3～▲50.1の幅でマイナス値となり、北海道、近畿、南関東の順に低下幅が大きくなった。
【見通し】
○ 先行き令和2年下半期の地域別景況DIは、南関東、東海、四国以外の地域でマイナス幅が縮小するものの、大幅なマイナス値が続く見通し。



（注）地域の区分
北海道……北海道
東北……青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
北関東……茨城県、栃木県、群馬県
南関東……埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県
甲信越・北陸‥新潟県、富山県、石川県、福井県、山梨県、長野県
東海……岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿……滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国……鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国……徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州……福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県（沖縄県除く）

業種別景況DI

○ 令和2年上半期の業種別の景況DIは、製造業、卸売業 、飲食業でマイナス幅が拡大した。一方、小売業では、令和元年下半期から46.0ポイント上昇し、18.3とプラス値に転じた。
○ 令和2年下半期の業種別の景況DIは、製造業、卸売業 、飲食業でマイナス幅が縮小。小売業では令和2年上半期から38.7ポイント低下し、▲20.4と再びマイナス値となる見通し。

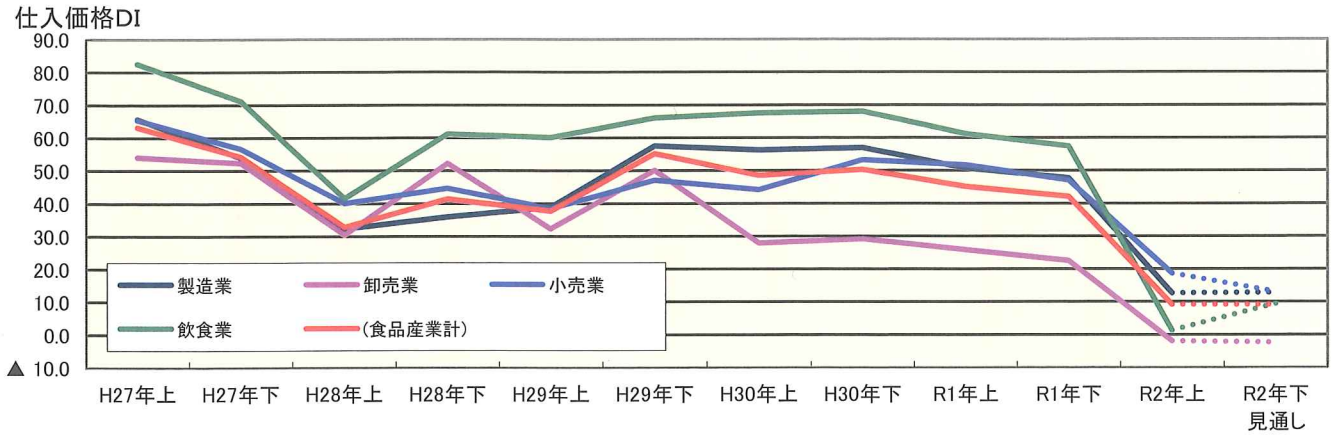


	平成27年上半期	平成27年下半期	平成28年上半期	平成28年下半期	平成29年上半期	平成29年下半期	平成30年上半期	平成30年下半期	令和元年上半期	令和元年下半期	令和2年上半期	令和2年下半期見通し
製造業	0.3	10.2	6.9	▲ 0.7	▲ 4.9	▲ 9.7	▲ 9.7	▲ 13.2	▲ 13.1	▲ 17.4	▲47.1(−29.7)	▲42.0(+5.1)
卸売業	8.0	7.9	2.9	6.2	▲ 8.5	▲ 15.3	▲ 15.3	▲ 17.8	▲ 24.8	▲ 29.2	▲42.2(−13.0)	▲38.2(+4.0)
小売業	16.0	22.9	9.9	▲ 1.3	▲ 13.0	▲ 11.1	▲ 11.1	▲ 11.4	▲ 15.7	▲ 27.7	18.3(+46.0)	▲20.4(−38.7)
飲食業	16.5	19.4	▲ 2.4	▲ 16.7	▲ 8.9	11.6	11.6	▲ 16.5	▲ 16.6	▲ 14.9	▲81.6(−66.7)	▲63.3(+18.3)

( )は前回との差

仕入価格DI （「上昇」の割合から「低下」の割合を引いた値）

○ 令和2年上半期の仕入価格DIは32.9ポイント低下し9.1となった。
○ 令和2年下半期の仕入価格DIは上期と変わらず9.1となる見通し。



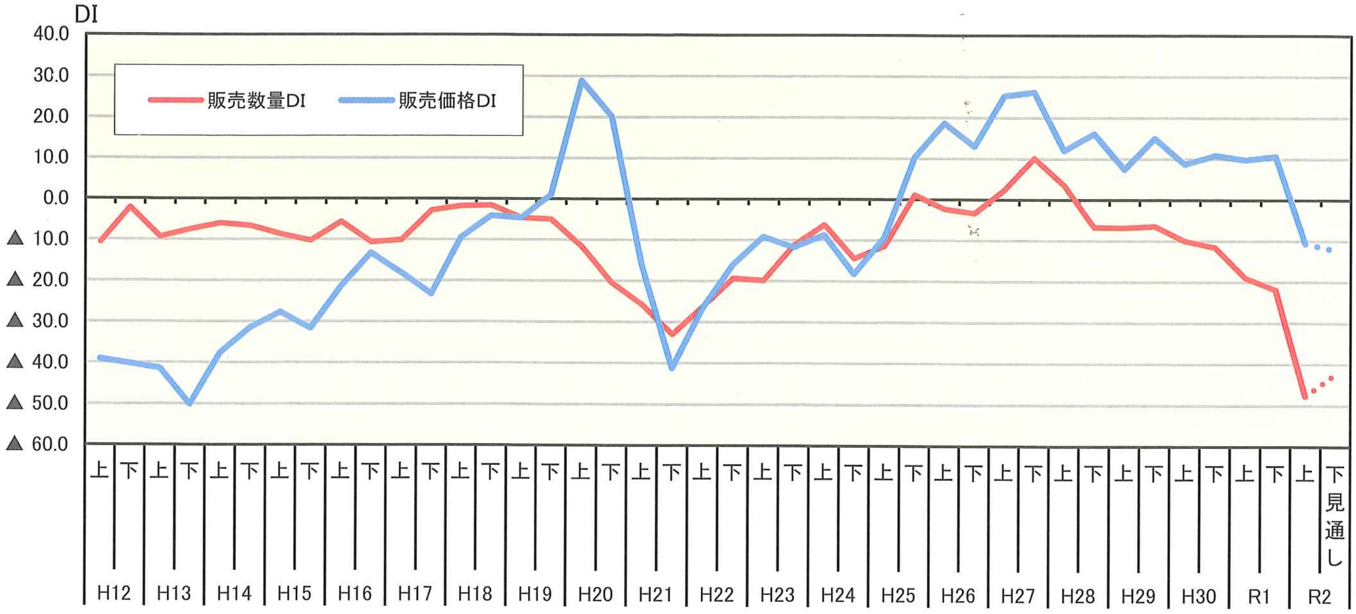
	平成27年上半期	平成27年下半期	平成28年上半期	平成28年下半期	平成29年上半期	平成29年下半期	平成30年上半期	平成30年下半期	令和元年上半期	令和元年下半期	令和２年上半期	令和２年下半期見通し
食品産業	63.1	54.1	32.7	41.3	37.6	55.1	48.5	50.2	45.0	42.0	9.1(−32.9)	9.1(+0.0)
うち製造業	65.6	53.8	32.2	35.9	38.8	57.5	56.2	56.9	50.6	47.7	12.6(−35.1)	12.8(+0.2)
うち卸売業	54.0	52.3	30.4	52.2	32.2	50.0	27.8	29.1	25.8	22.5	▲2.0(−24.5)	▲2.4(−0.4)
うち小売業	65.3	56.6	40.0	44.6	38.4	47.0	44.1	53.2	51.6	47.0	18.6(−28.4)	13.0(−5.6)
うち飲食業	82.4	71.0	41.4	61.1	60.0	66.0	67.4	67.9	61.1	57.4	1.2(−56.2)	9.4(+8.2)

( )は前回との差

②

販売数量DIと販売価格DI（「上昇（増加）」の割合から「低下（減少）」の割合を引いた値）

【販売数量】
○　令和2年上半期の販売数量DIは25.8ポイント低下し、▲47.6となった。
○　令和2年下半期の販売数量DIは5.3ポイント上昇し▲42.3となる見通し。
【販売価格】
○　令和2年上半期の販売価格DIは21.3ポイント低下し、▲10.5となった。
○　令和2年下半期の販売価格DIは1.6ポイント低下し▲12.1となる見通し。

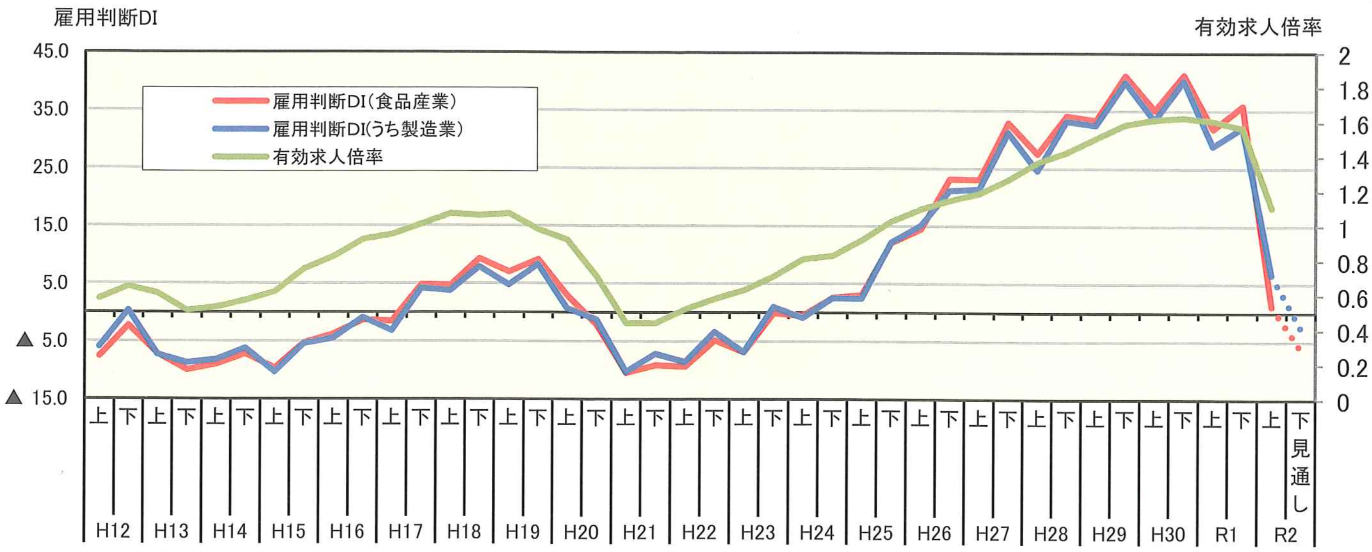


	平成27年上半期	平成27年下半期	平成28年上半期	平成28年下半期	平成29年上半期	平成29年下半期	平成30年上半期	平成30年下半期	令和元年上半期	令和元年下半期	令和2年上半期	令和2年下半期見通し
販売数量DI	2.4	10.2	3.6	▲ 6.6	▲ 6.7	▲ 6.3	▲ 9.9	▲ 11.5	▲ 18.9	▲ 21.8	▲47.6(−25.8)	▲42.3(+5.3)
販売価格DI	25.4	26.3	12.1	16.2	7.6	15.1	8.8	11.0	9.9	10.8	▲10.5(−21.3)	▲12.1(−1.6)

（ ）は前回との差

雇用判断DI （「不足」の割合から「過剰」の割合を引いた値）

○　令和2年上半期の雇用判断DIは34.7ポイント低下し1.2となり、労働力の不足感は解消しつつある。
○　令和2年下半期の雇用判断DIは7.4ポイント低下し▲6.2となり、労働力は不足から過剰に転換する見通し。



	平成27年上半期	平成27年下半期	平成28年上半期	平成28年下半期	平成29年上半期	平成29年下半期	平成30年上半期	平成30年下半期	令和元年上半期	令和元年下半期	令和2年上半期	令和2年下半期見通し
食品産業	23.1	33.0	27.6	34.2	33.4	41.2	35.2	41.3	31.9	35.9	1.2(−34.7)	▲6.2(−7.4)
うち製造業	21.5	31.3	24.7	33.3	32.6	40.1	33.5	40.3	29.0	32.2	6.7(−25.5)	▲2.5(−9.2)

（ ）は前回との差

設備投資DI （「増加」の割合から「減少」の割合を引いた値）

○ 設備投資DI（令和2年7月時点の令和2年通年の設備投資見通し）は▲11.2となり、9年ぶりにマイナス値となった。

（注）年途中に行う上半期調査に比べ、年初に行う下半期調査の方が設備投資に対して弱含みの数値となりやすい。

	平成21年	平成22年	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年
設備投資DI（修正見通し：7月）	▲ 14.3	▲ 4.5	▲ 3.8	3.2	3.3	3.3	8.9	10.9	9.9	8.4	6.1	▲11.2（−17.3）
設備投資DI（当初見通し：1月）	▲ 26.7	▲ 19.1	▲ 10.5	▲ 4.9	▲ 1.1	3.1	▲ 1.3	8.4	5.8	6.7	7.0	0.5（−6.5）

（ ）は前回との差

④

【参考】 景況DI（業種別詳細）

業種／業態		景況		売上高		経常利益		資金繰り	
		令和２年上半期	令和２年下半期	令和２年上半期	令和２年下半期	令和２年上半期	令和２年下半期	令和２年上半期	令和２年下半期
製造業	食肉加工品	▲ 40.4	▲ 30.8	▲ 43.0	▲ 32.3	▲ 45.3	▲ 32.5	▲ 33.0	▲ 27.6
	牛乳・乳製品	▲ 24.6	▲ 2.2	▲ 32.9	1.4	▲ 23.3	▲ 1.3	▲ 17.6	▲ 6.7
	水産食品	▲ 45.7	▲ 37.4	▲ 60.6	▲ 45.3	▲ 51.1	▲ 44.6	▲ 25.4	▲ 22.3
	農産保存食品	▲ 46.0	▲ 45.9	▲ 49.3	▲ 42.9	▲ 53.4	▲ 55.7	▲ 35.3	▲ 39.1
	調味料	▲ 52.4	▲ 43.7	▲ 62.1	▲ 48.7	▲ 59.6	▲ 50.4	▲ 35.6	▲ 31.9
	糖類	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 40.0	▲ 60.0	▲ 30.0	▲ 40.0	▲ 20.0	▲ 20.0
	精穀・製粉	▲ 45.0	▲ 45.4	▲ 51.8	▲ 52.7	▲ 53.7	▲ 50.9	▲ 29.6	▲ 32.7
	パン	▲ 42.2	▲ 26.5	▲ 61.8	▲ 29.4	▲ 47.1	▲ 32.4	▲ 17.6	▲ 17.6
	菓子	▲ 58.9	▲ 53.2	▲ 64.1	▲ 57.7	▲ 67.0	▲ 58.7	▲ 45.7	▲ 43.1
	油脂	▲ 66.7	▲ 52.6	▲ 85.0	▲ 47.4	▲ 65.0	▲ 63.1	▲ 50.0	▲ 47.4
	めん類	▲ 16.5	▲ 33.6	▲ 4.4	▲ 31.4	▲ 18.2	▲ 37.9	▲ 26.9	▲ 31.4
	冷凍食品	▲ 34.3	▲ 34.3	▲ 40.3	▲ 38.8	▲ 40.3	▲ 38.8	▲ 22.4	▲ 25.3
	炊飯・そう菜	▲ 61.3	▲ 46.3	▲ 65.9	▲ 47.8	▲ 69.0	▲ 52.3	▲ 48.9	▲ 38.7
	飲料	▲ 49.1	▲ 56.0	▲ 57.6	▲ 69.0	▲ 59.3	▲ 63.8	▲ 30.5	▲ 35.1
	酒類	▲ 76.7	▲ 69.7	▲ 89.2	▲ 77.2	▲ 85.7	▲ 76.6	▲ 55.1	▲ 55.4
	その他	▲ 33.7	▲ 33.0	▲ 35.4	▲ 34.7	▲ 40.0	▲ 37.4	▲ 25.7	▲ 26.9
（製造業）①		▲ 47.1	▲ 42.0	▲ 54.1	▲ 45.8	▲ 53.4	▲ 47.7	▲ 33.8	▲ 32.5
卸売業	各種商品	▲ 55.9	▲ 41.6	▲ 67.5	▲ 45.2	▲ 66.3	▲ 49.4	▲ 33.8	▲ 30.1
	穀類・豆類	▲ 36.8	▲ 33.4	▲ 42.1	▲ 42.1	▲ 54.4	▲ 42.1	▲ 14.0	▲ 16.1
	青果物	▲ 13.7	▲ 19.4	▲ 12.8	▲ 19.7	▲ 16.0	▲ 23.4	▲ 12.3	▲ 15.2
	食肉	▲ 61.3	▲ 47.3	▲ 70.9	▲ 53.2	▲ 74.2	▲ 54.8	▲ 38.7	▲ 33.9
	生鮮魚介	▲ 64.2	▲ 47.1	▲ 85.7	▲ 54.8	▲ 76.0	▲ 51.2	▲ 30.9	▲ 35.2
	その他生鮮品	▲ 76.7	▲ 72.2	▲ 93.3	▲ 83.3	▲ 86.7	▲ 80.0	▲ 50.0	▲ 53.3
	その他飲食品	▲ 46.2	▲ 51.7	▲ 58.4	▲ 64.0	▲ 56.0	▲ 61.6	▲ 24.2	▲ 29.6
（卸売業）②		▲ 42.2	▲ 38.2	▲ 51.4	▲ 43.8	▲ 51.1	▲ 44.6	▲ 24.2	▲ 26.2
②のうち市場関係業者	うち市場開設兼卸売	▲ 39.8	▲ 37.8	▲ 51.2	▲ 42.7	▲ 43.9	▲ 43.9	▲ 24.3	▲ 26.8
	うち市場卸売	▲ 42.9	▲ 31.0	▲ 57.2	▲ 35.9	▲ 50.0	▲ 35.4	▲ 21.6	▲ 21.6
	うち市場仲卸	▲ 23.7	▲ 34.3	▲ 22.2	▲ 39.4	▲ 30.5	▲ 39.4	▲ 18.5	▲ 24.0
（小売業）③		18.3	▲ 20.4	22.9	▲ 21.4	24.9	▲ 23.4	7.2	▲ 16.5
（飲食業）④		▲ 81.6	▲ 63.3	▲ 91.9	▲ 69.4	▲ 85.9	▲ 65.1	▲ 67.0	▲ 55.3
（食品産業計）①～④計		▲ 41.6	▲ 40.0	▲ 48.3	▲ 44.0	▲ 47.4	▲ 45.5	▲ 29.2	▲ 30.4

お天気マークは、DI値によって次のとおりとしています。

≦−20＜ ≦−5＜ ＜5≦ ＜20≦

2 新型コロナウイルス感染症拡大の影響について

新型コロナウイルス感染症拡大による売上高への影響

○ 新型コロナウイルス感染症拡大による売上高への影響（図1）は、製造業で75.1%、卸売業で71.1%、小売業で34.4%、飲食業で95.3%がマイナスの影響が出ていると回答。
○ 小売業では、過半数（56.4%）が「プラスの影響がでている」と回答。
○ 製造業を売上規模別にみると（図2）、売上規模が小さいほど、マイナスの影響が出ていると回答する割合が高くなった。

図1 新型コロナウイルス感染症拡大の影響

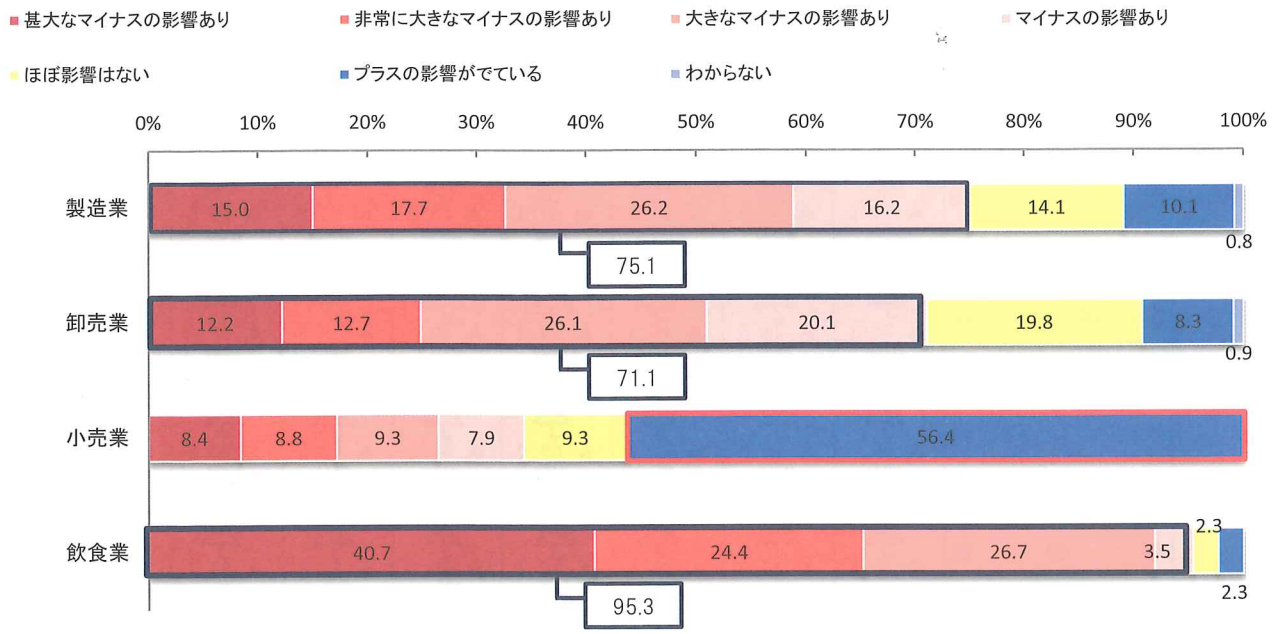
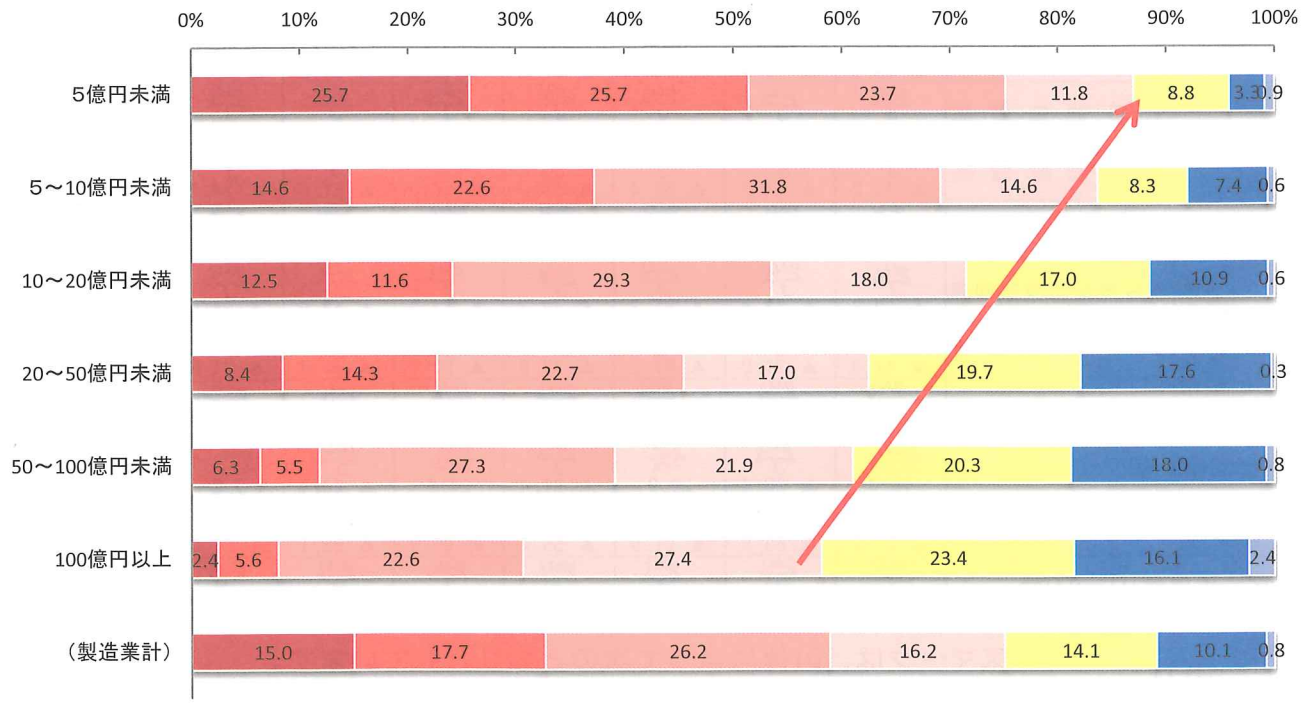


図2 新型コロナウイルス感染症拡大の影響（製造業 売上規模別）



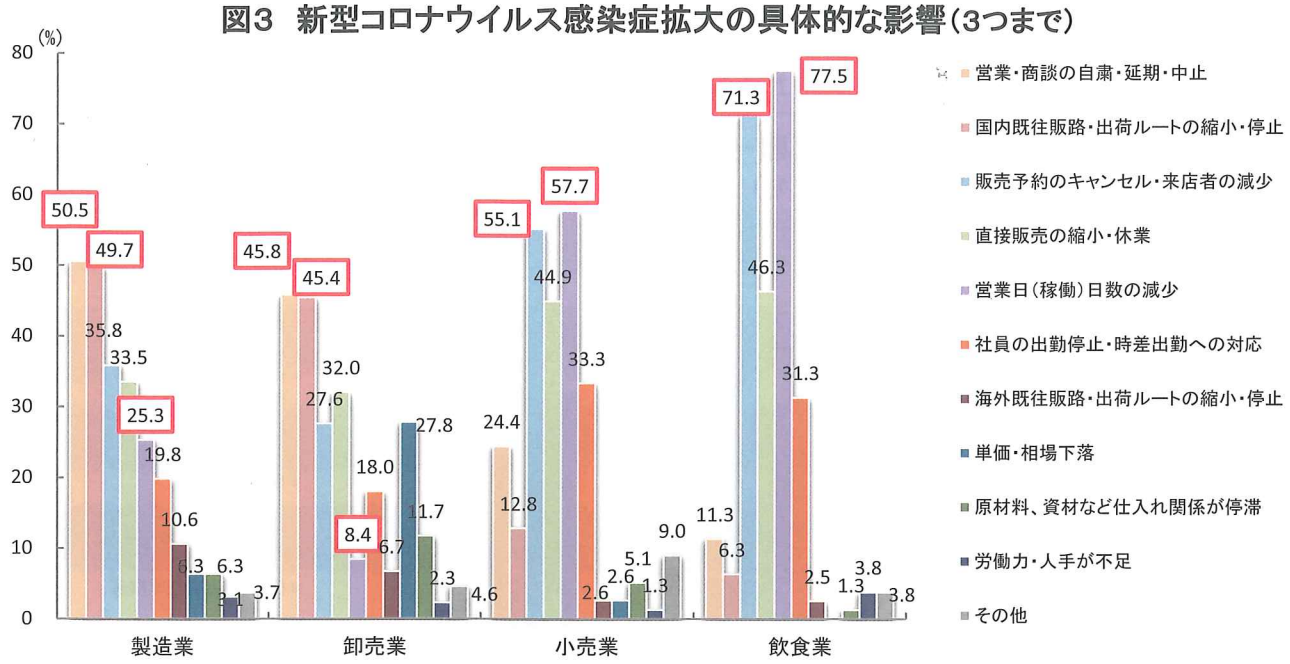
新型コロナウイルス感染症拡大による具体的な影響

○ 新型コロナウイルス感染症拡大による売上高へのマイナスの影響がでていると回答した人に、具体的な影響内容を聞いたところ（図3）、製造業と卸売業では「営業・商談の自粛・延期・中止」が最も高く、次いで「国内既往販路・出荷ルートの縮小・停止」となった。小売業と飲食業では「営業日（稼働）日数の減少」が最も高く、次いで「販売予約のキャンセル・来店者の減少」となった。

○ 製造業を売上規模別にみると（図4）、規模に関わらず「国内既往販路・出荷ルートの縮小・停止」、「営業・商談の自粛・延期・中止」が上位となった。

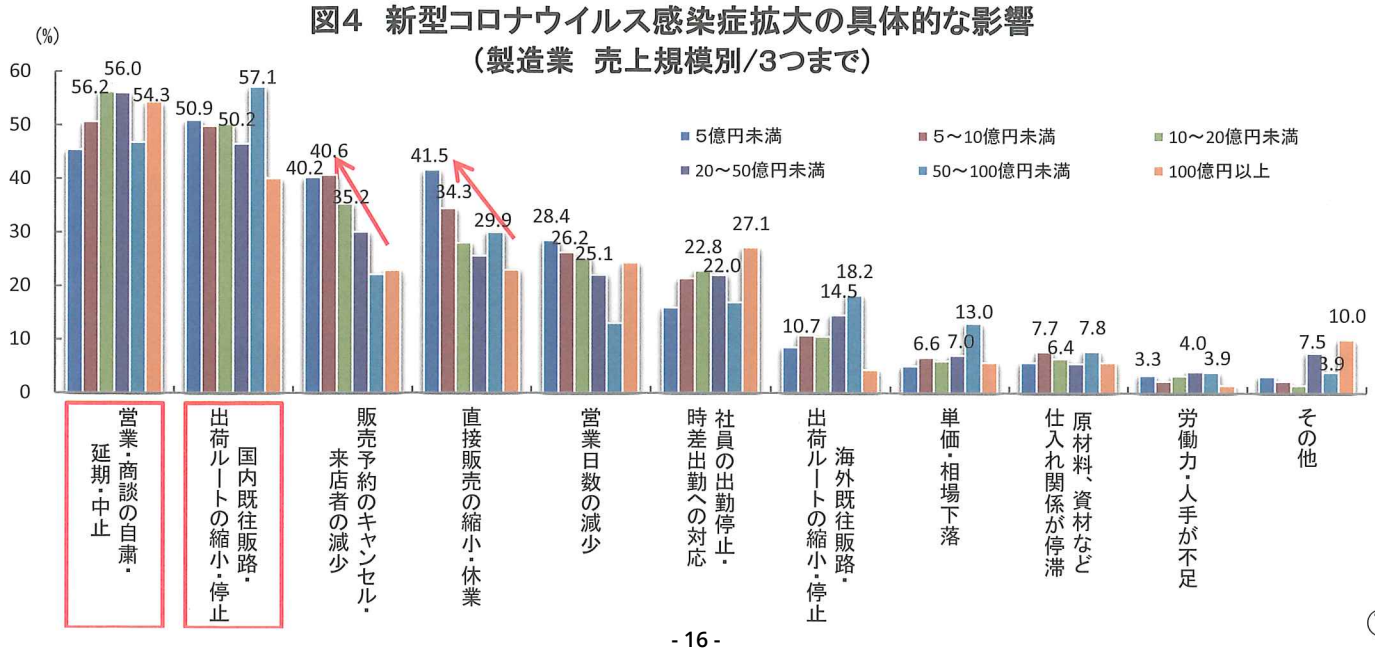
○ 図2にて売上規模が小さいほどマイナスの影響が出ているという結果になったが、これは、売上規模が小さいほど「直接販売の縮小・休業」、「販売予約のキャンセル・来店者の減少」による影響を受けていることが一因と考えられる（図4）。

図3 新型コロナウイルス感染症拡大の具体的な影響（3つまで）



	製造業	卸売業	小売業	飲食業
1位	営業・商談の自粛・延期・中止	営業・商談の自粛・延期・中止	営業日（稼働）日数の減少	営業日（稼働）日数の減少
2位	国内既往販路・出荷ルートの縮小・停止	国内既往販路・出荷ルートの縮小・停止	販売予約のキャンセル・来店者の減少	販売予約のキャンセル・来店者の減少
3位	販売予約のキャンセル・来店者の減少	直接販売の縮小・休業	直接販売の縮小・休業	直接販売の縮小・休業

図4 新型コロナウイルス感染症拡大の具体的な影響（製造業 売上規模別/3つまで）



新型コロナ収束後の経営再建・発展における課題

○ 新型コロナ収束後の経営再建・発展における課題は（図5）、製造業では「需要の変化に対応した商品・生産物の見直し、開発」（55.3%）が最も高く、「販路多様化」（39.4%）、「資金繰りの安定」（30.8%）と続いた。

○ 卸売業では「需要の変化に対応した商品・生産物の見直し、開発」（48.6%）が最も高く、「販路多様化」（38.1%）、「原料・商品の安定調達」（32.0%）と続いた。

○ 小売業では「衛生対策に配慮した施設整備、管理面の強化」（52.1%）が最も高く、「需要の変化に対応した商品・生産物の見直し、開発」（44.7%）、「販路多様化」（33.2%）、「人員確保、育成対策」（33.2%）と続いた。

○ 飲食業では「販路多様化」（58.1%）が最も高く、「資金繰りの安定」（48.8%）、「衛生対策に配慮した施設整備、管理面の強化」（41.9%）と続いた。

○ 製造業を売上規模別にみると（図6）、「需要の変化に対応した商品・生産物の見直し、開発」は規模に関わらず高くなっており、「省力化・省人化」及び「設備合理化・増強」は売上規模が大きいほど高くなった。また、「資金繰りの安定」は売上高が小さいほど高くなった。

図5　新型コロナ収束後の経営再建・発展における課題
（業種別/3つまで）

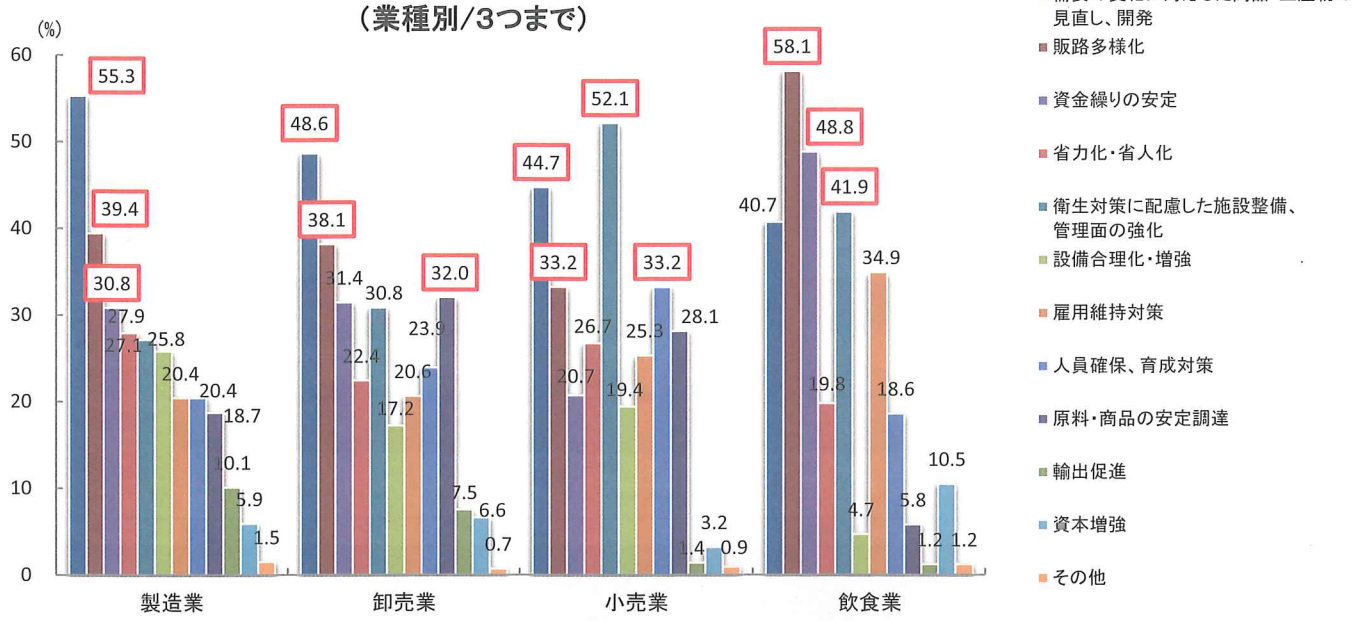
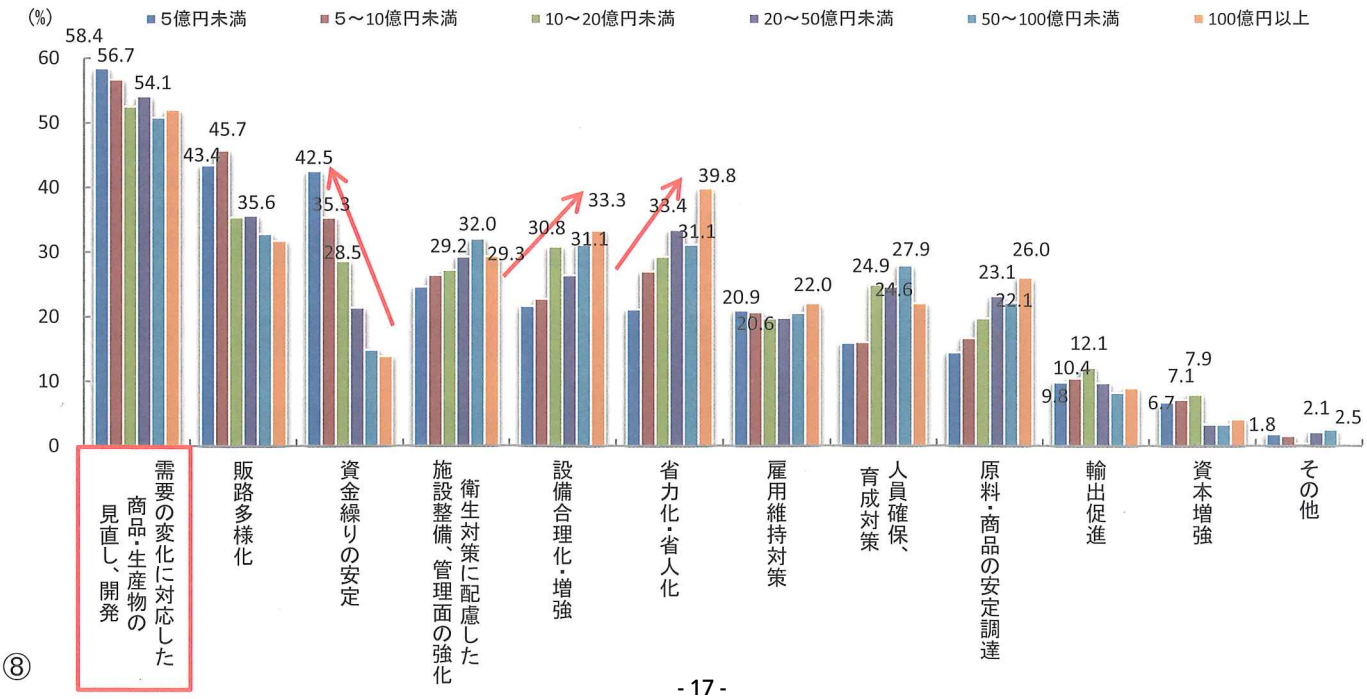


図6　新型コロナ収束後の経営再建・発展における課題
（製造業　売上規模別/3つまで）



3 国内産地との取引について

今後の国内産地との取引について

○ コロナ下における国内産地との取引の意向を調査したところ（図7）、製造業で29.0%、卸売業で44.1%、小売業で36.8%、飲食業で27.7%が「増やしたい」と回答した。
○ 国内産地との取引を「増やしたい」と回答した人に、増やしたい理由を聞いたところ（図8）、製造業、卸売業、小売業で「販売先（消費者サイド）の国産志向の高まり等でニーズ増加（需要拡大）」が最も高くなった。

図7　今後の国内産地との取引について

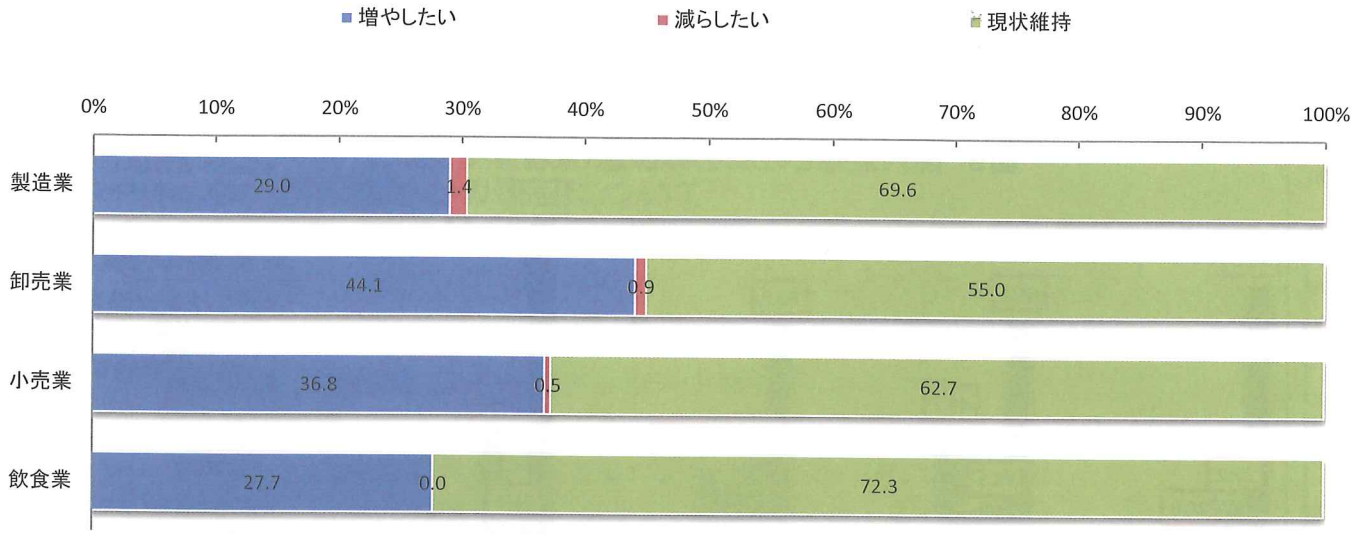
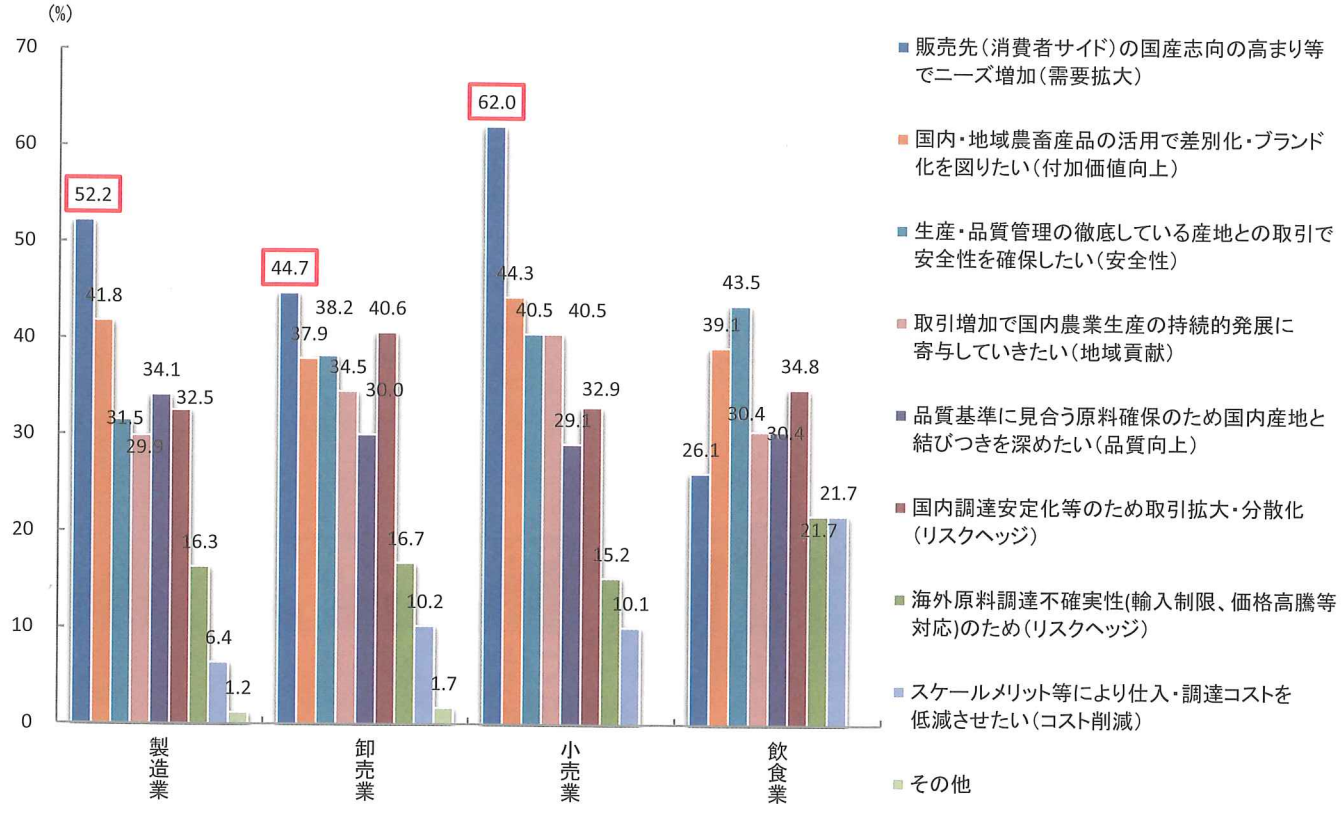


図8　国内産地との取引を増やしたい理由（業種別/3つまで）



国内産地との取引の課題

○ 国内産地との取引を行う際の課題は（図9）、全業種で「価格が合わない（高い、相場が不安定）」が最も高くなった。
○ 製造業では次いで「ロットが合わない（定量確保が困難）」（32.2%）、「通年（決まった時期）の取引が難しい」（26.6%）となった。
○ 卸売業では次いで「物流に課題がある」（44.7%）、「ロットが合わない（定量確保が困難）」（31.1%）となった。
○ 小売業では次いで「ロットが合わない（定量確保が困難）」（39.5%）、「物流に課題がある」（37.3%）となった。
○ 飲食業では次いで「通年（決まった時期）の取引が難しい」（44.4%）、「ロットが合わない（定量確保が困難）」（26.4%）となった。
○ 製造業を売上規模別にみると（図10）、売上規模に関わらず「価格が合わない（高い、相場が不安定）」が最も高くなった。
○ 製造業を売上規模別にみると、売上規模が小さいほど「産地の情報（収集方法）がわからない」が高くなり、売上規模が大きいほど「ロットが合わない（定量確保が困難）」が高くなった。

図9 国内産地との取引の課題（業種別/3つまで）

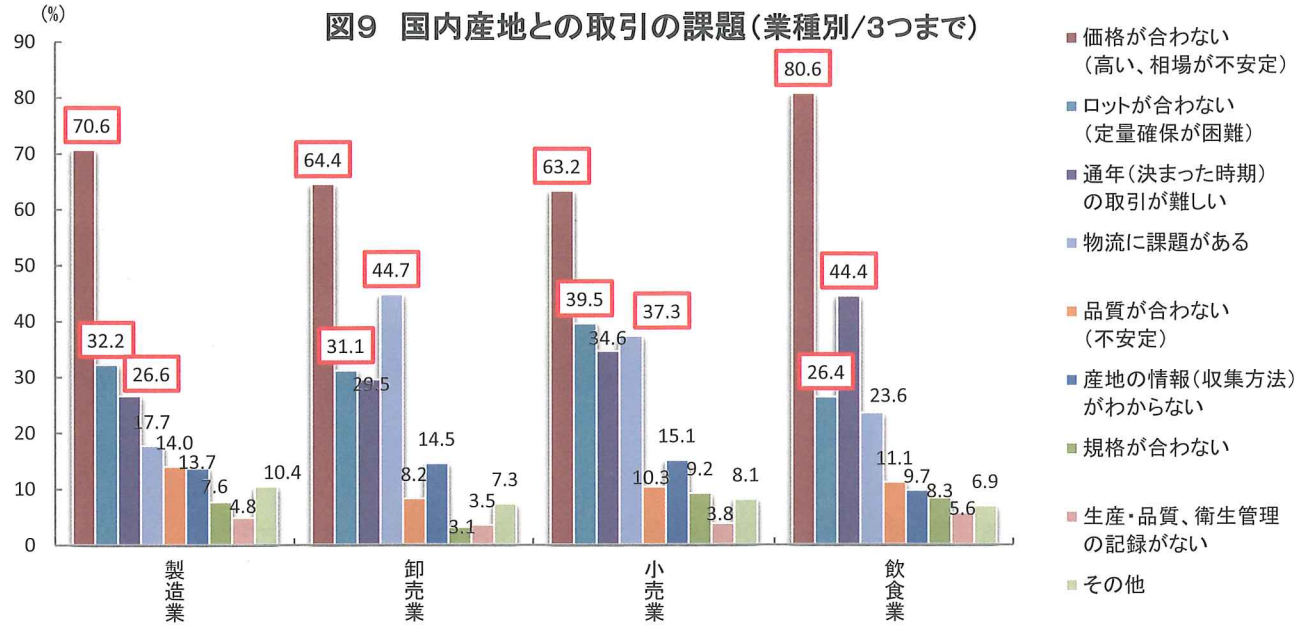
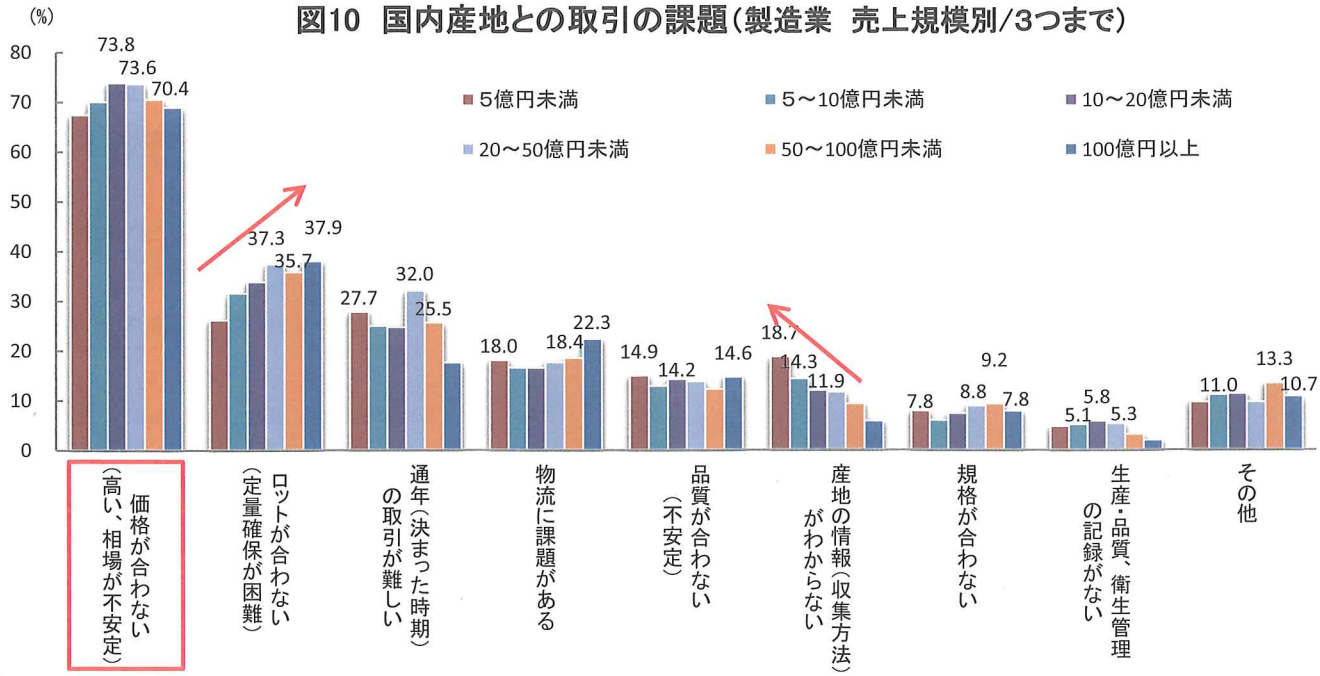


図10 国内産地との取引の課題（製造業 売上規模別/3つまで）



⑩

消費者動向調査（令和２年７月調査）

食の志向等に関する調査結果

１　食に関する志向
２　国産品かどうかを気にかけるか
３　国産食品の輸入食品に対する価格許容度
４　コロナ下での食品購入方法の変化に関する調査（特別設問）
５　コロナ下での調理方法の変化に関する調査（特別設問）

調査要領

調査時期　令和２年７月
調査方法　インターネット調査
全国の20歳代～70歳代の男女2,000人（男女各1,000人）
※インターネット調査であるため、回答者はインターネット利用者に限られる。

＜調査に関するお問い合わせ＞
日本政策金融公庫　農林水産事業
情報企画部　TEL　03-3270-5585

詳しい調査結果は、当公庫ホームページ（http://www.jfc.go.jp/）に掲載しています。
トップページから「刊行物・各種調査結果」→「農林水産事業　調査結果」→「消費者動向等調査」の順でご覧ください。

注：図表において、四捨五入の関係上、合計が一致しない場合があります。

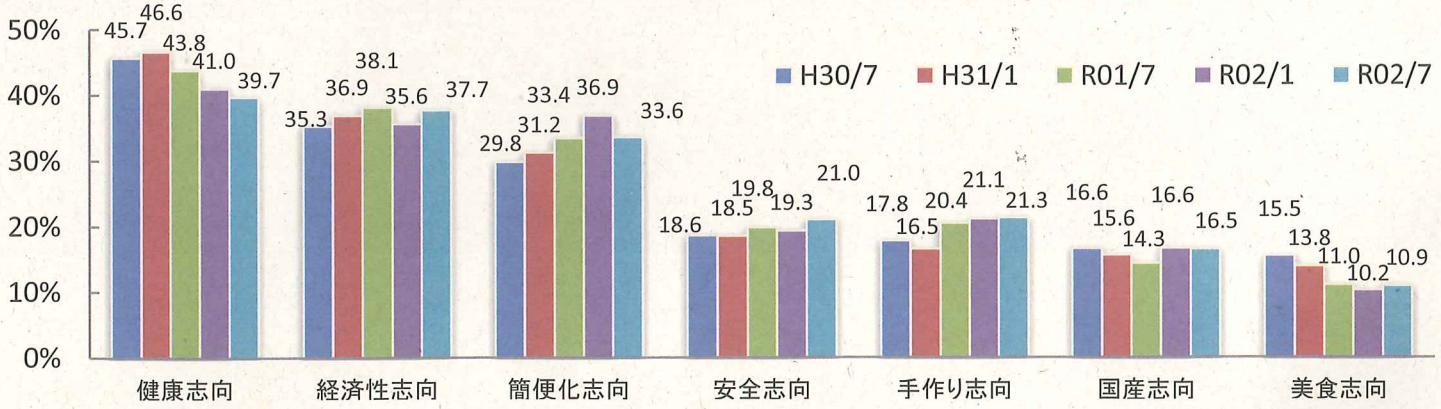
令和２年９月
日本政策金融公庫
農林水産事業

1　食に関する志向

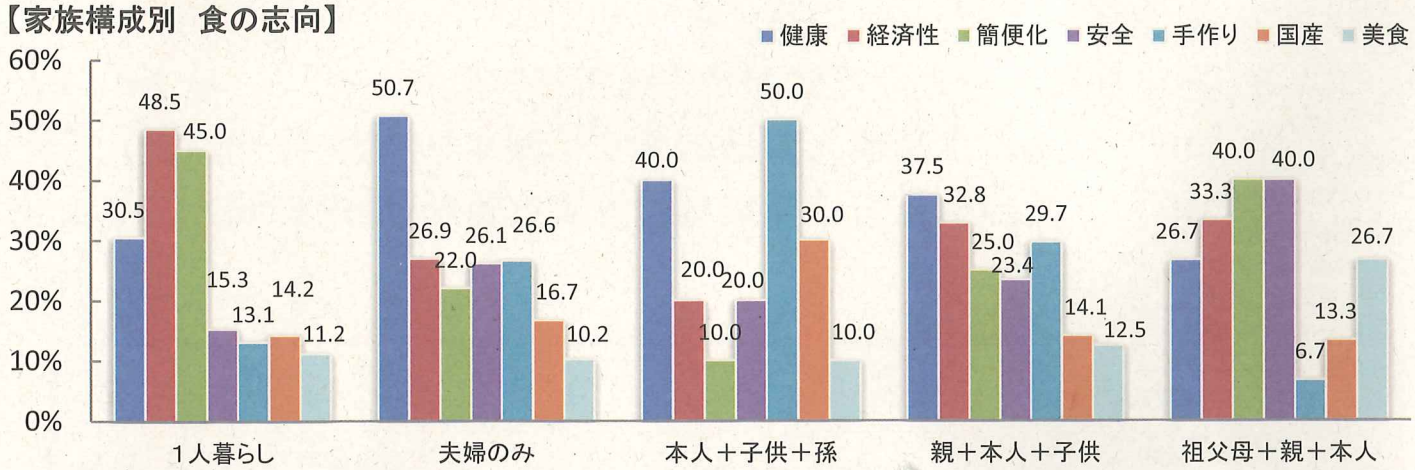
経済性志向がほぼ全世代で上昇。

図1　現在の食の志向（上位）の推移（2つまで回答）

・食の3大志向の「健康志向」「経済性志向」「簡便化志向」は変わらず。今回の調査では経済性志向が上昇（37.7%、前回比2.1ポイント）した。「健康志向」（39.7%、前回比▲1.3ポイント）の低下傾向が続き、上昇傾向だった「簡便化志向」（33.6%、前回比▲3.3ポイント）は低下した。



【家族構成別　食の志向】



【回答者（本人）の年齢構成】

	20代	30代	40代	50代	60代	70代
1人暮らし	22.3	18.8	16.1	13.4	16.6	12.8
夫婦のみ	6.7	9.3	13.9	16.9	27.6	25.5
本人＋子供＋孫	0.0	0.0	0.0	10.0	50.0	40.0
親＋本人＋子供	7.8	18.8	25.0	26.6	20.3	1.6
祖父母＋親＋本人	66.7	26.7	6.7	0.0	0.0	0.0

（%）

図2　3大志向の推移

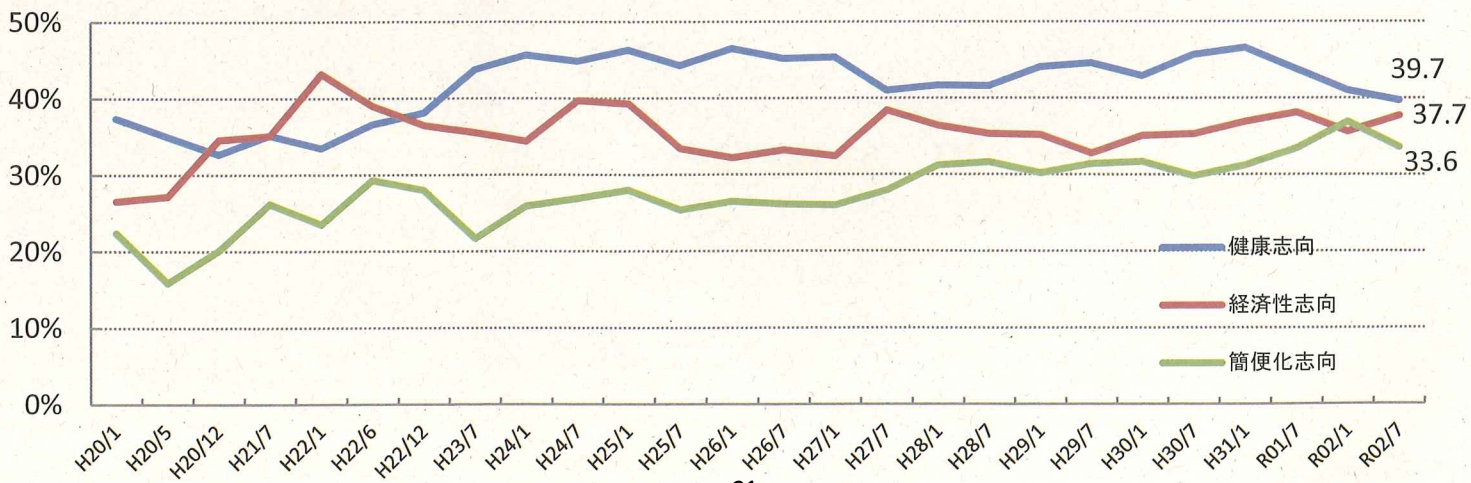
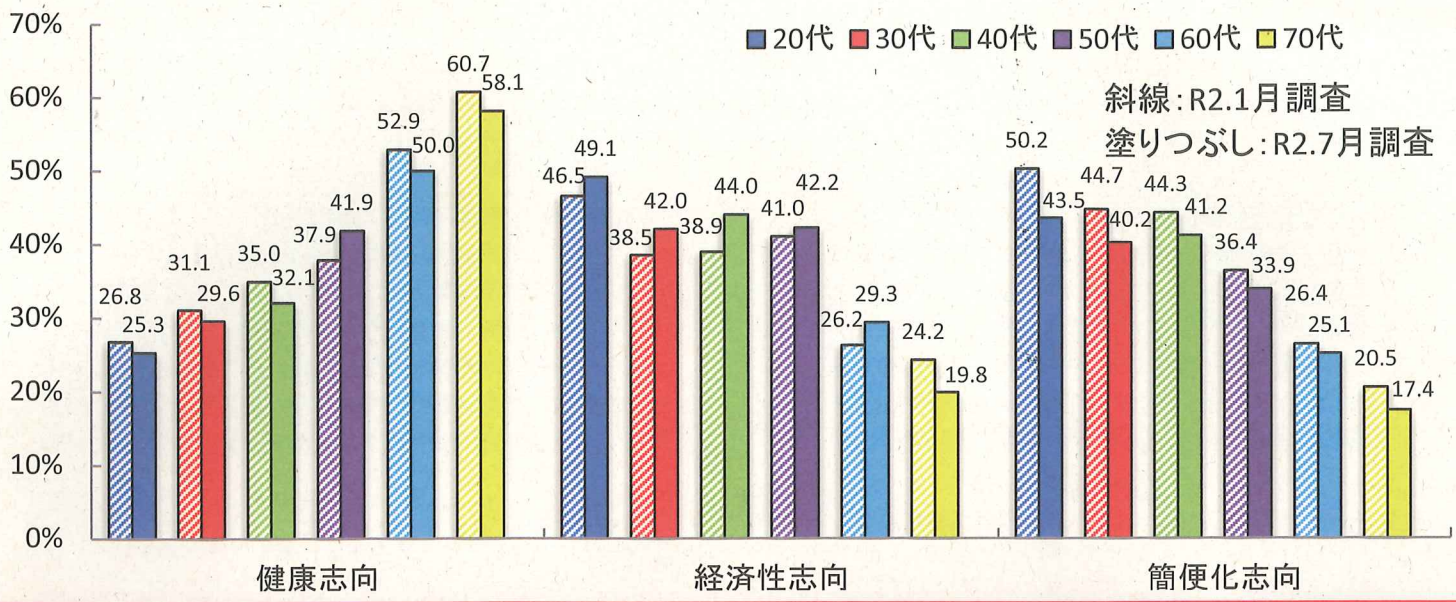


図3　年代別　現在の食の志向（上位）（上位2つ回答）

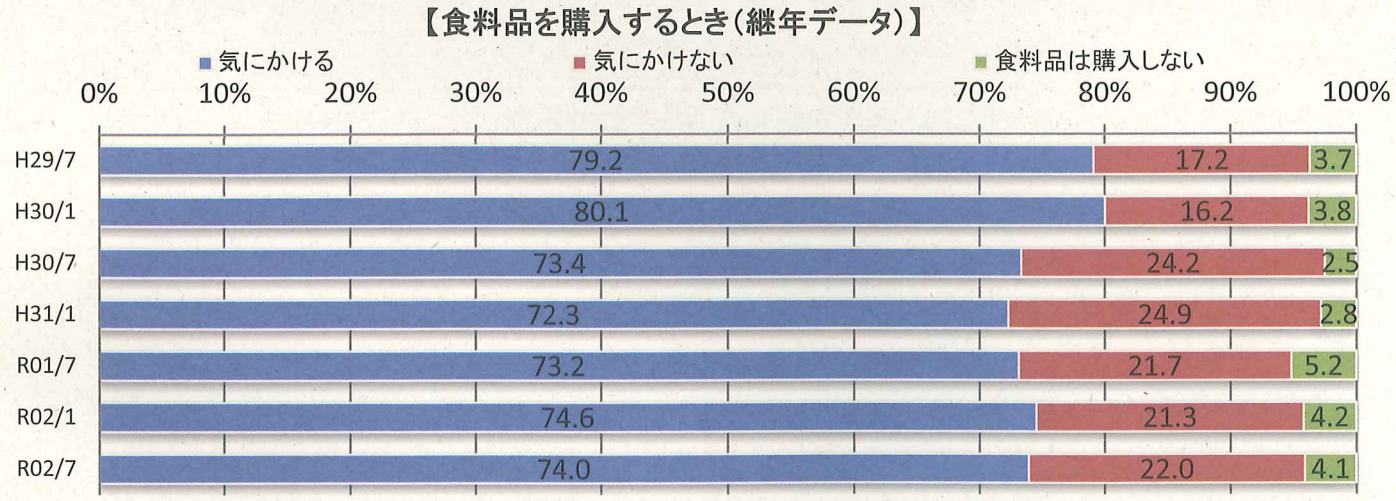
・「経済性志向」はほぼ全世代（70代以外）で上昇した。「健康志向」はほぼ全世代（50代以外）で低下した。
　全年代で「簡便化志向」が低下した。



2　国産品かどうかを気にかけるか

図4　食料品を購入するときに国産品かどうかを気にかけるか

・「食料品を購入するときに国産品かどうかを気にかける」（74.0%）は、横ばいで推移。
・年代別にみると、年代が高くなるほど国産品かどうかを「気にかける」割合が高くなっている。



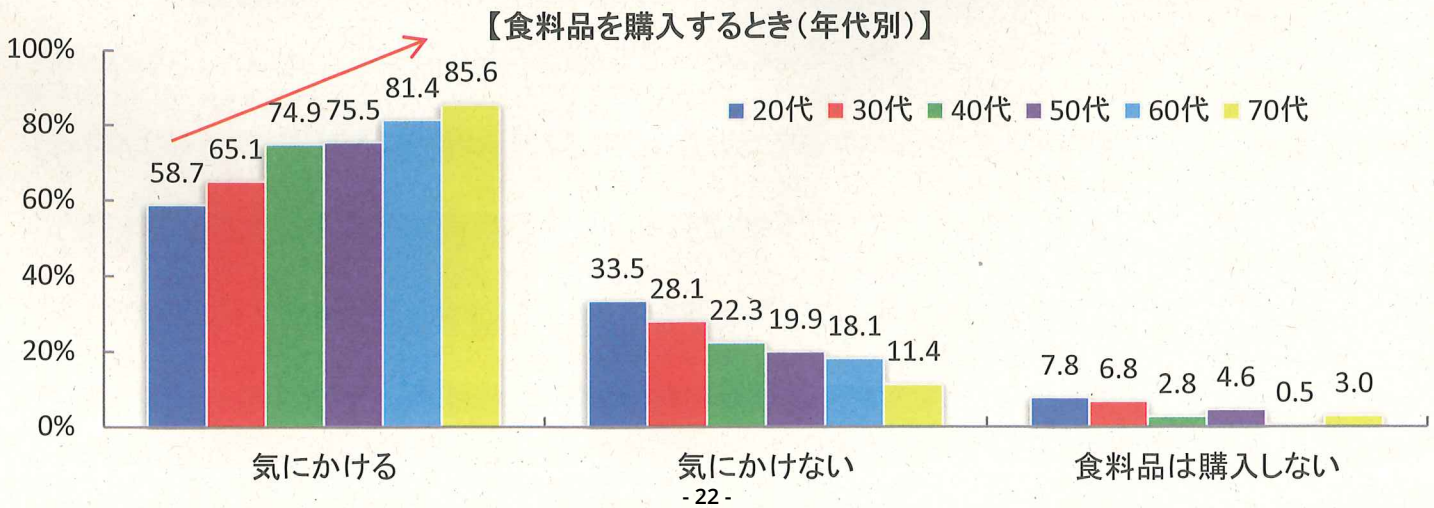
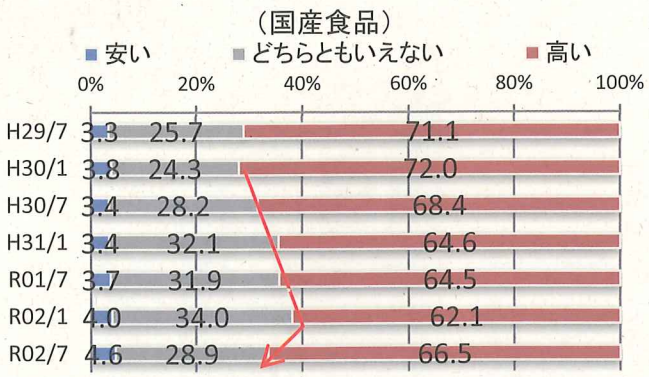
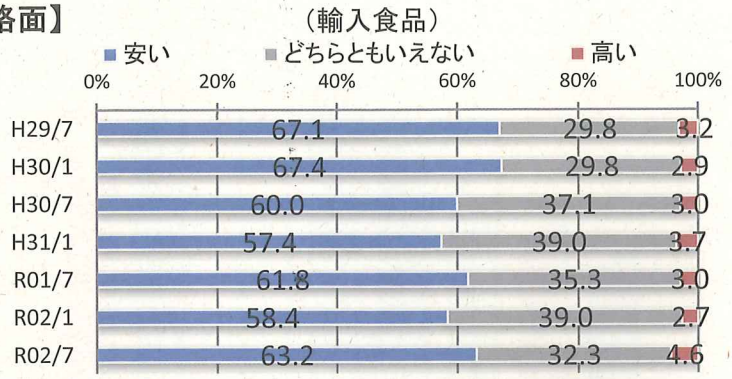


図5　国産食品、輸入食品に対するイメージ（価格、安全）

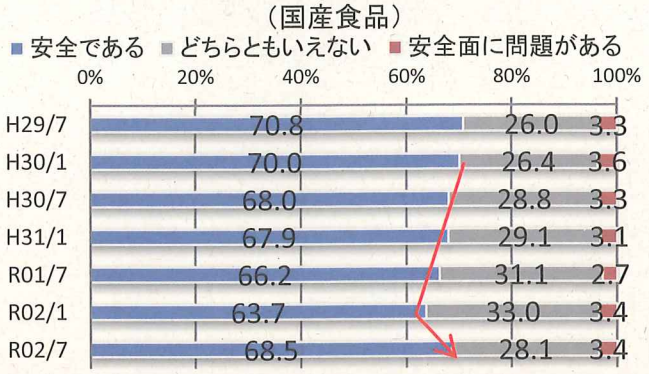
・国産食品に対するイメージについて、これまで低下傾向にあった、価格が「高い」、「安全である」の割合は、今回調査で上昇に転じた。
・輸入食品に対するイメージについて、これまで低下傾向にあった、「安全面に問題がある」の割合は、今回調査では上昇に転じた。

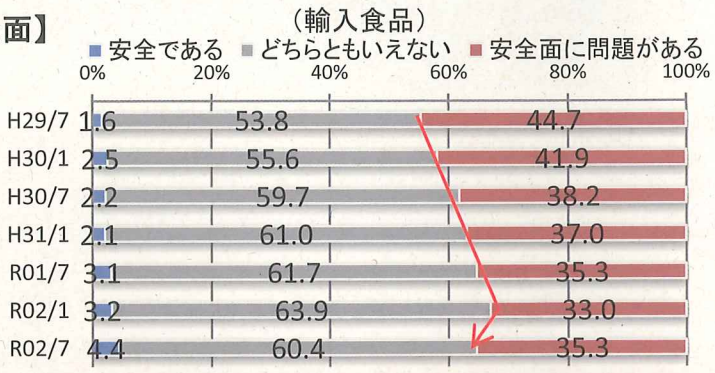
【価格面】





【安全面】

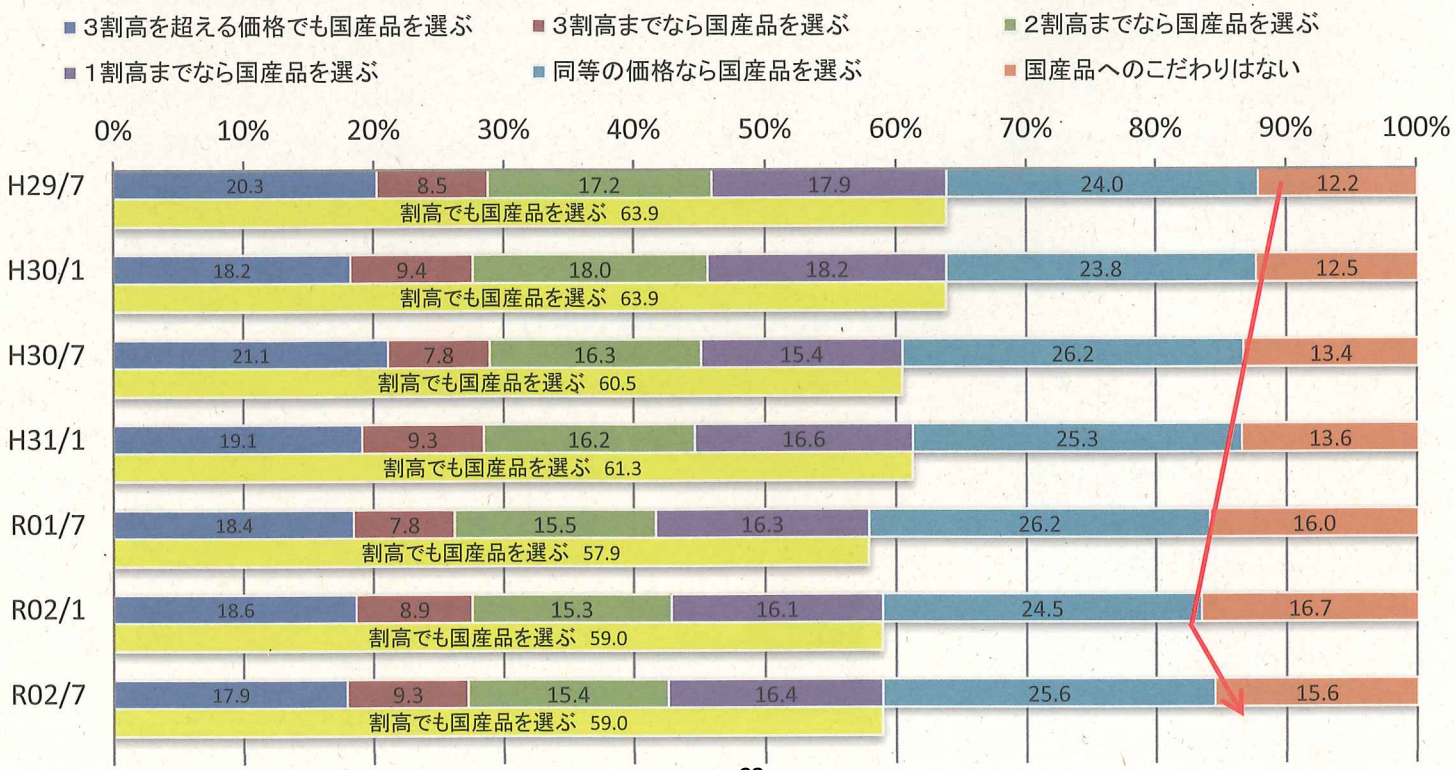




3　国産食品の輸入食品に対する価格許容度

図6　国産食品の輸入食品に対する価格許容度の推移

・「割高でも国産品を選ぶ」は、59.0%と過半を維持し、横ばいで推移。
・一方、「国産品へのこだわりはない」は15.6%となり、これまでの上昇傾向から低下に転じた。

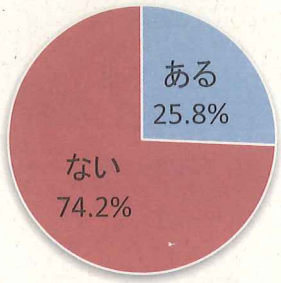


4 コロナ下での食品購入方法の変化に関する調査（特別設問）

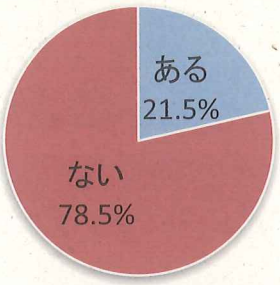
図7 新型コロナウイルスの影響による農林水産物・食品の購入方法の変化

・新型コロナウイルス感染症の拡大を受けて、25.8%の消費者が食品の購入方法に変化が生じたと回答。
・利用が増えた購入方法は、「インターネット購入」（38.0%）が最も多く、次いで「量販店・スーパー」（29.1%）、「テイクアウト」(27.3%)となった。

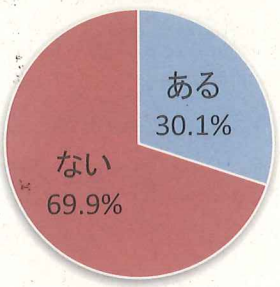
【購入の仕方に変化があったか】（全体）



【購入の仕方に変化があったか】（男性）



【購入の仕方に変化があったか】（女性）



【利用する機会や量が増加した購入方法】（3つまで/変化があった人）

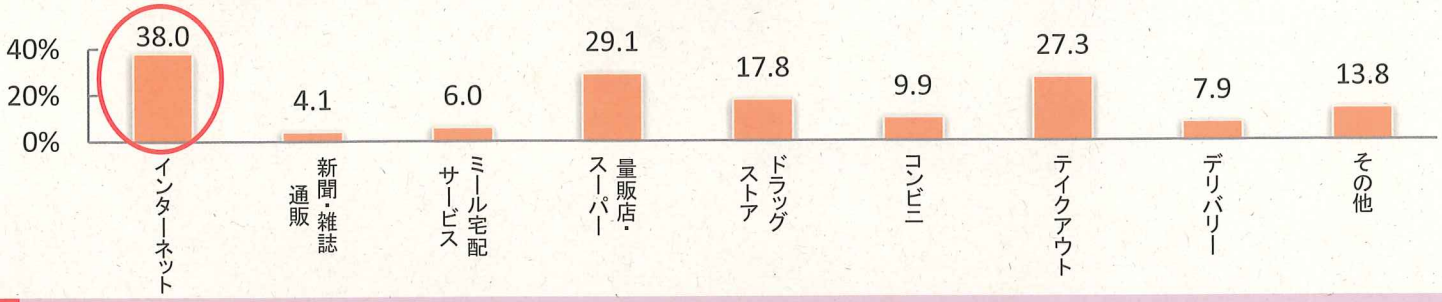
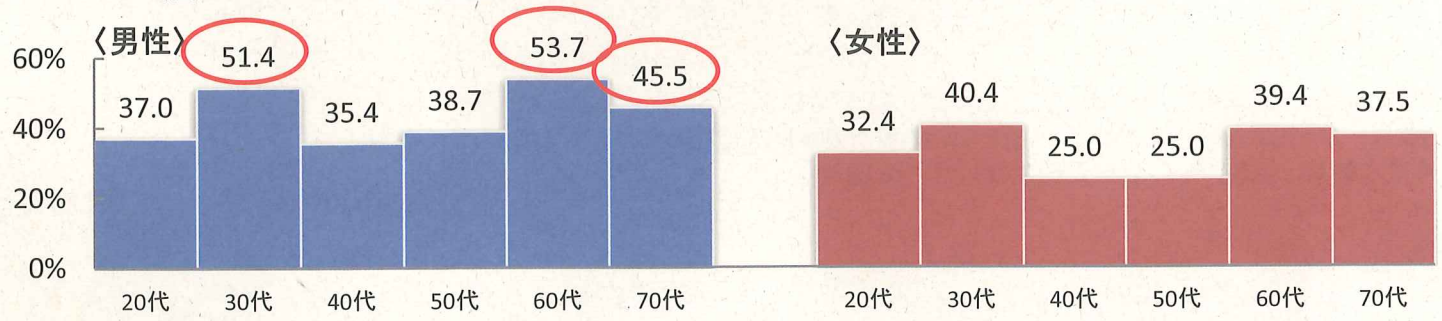


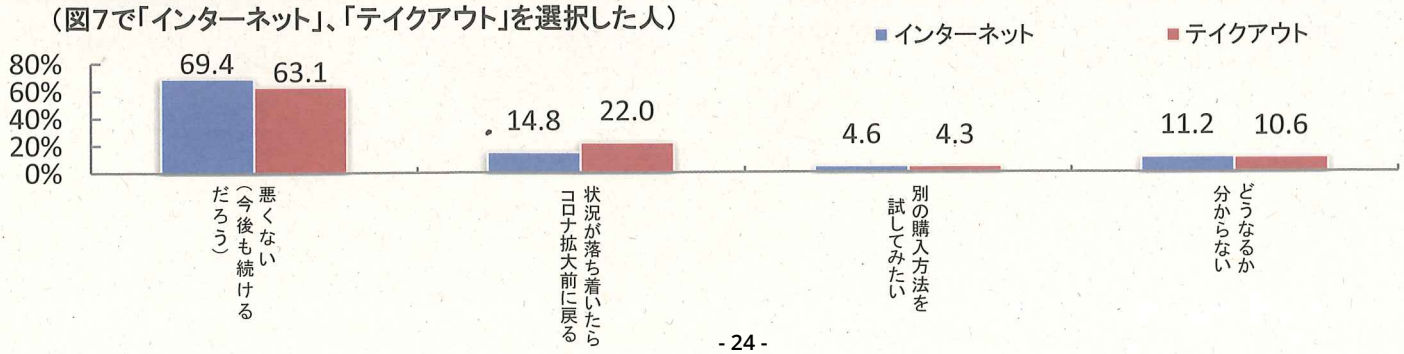
図8 農林水産物・食品のインターネット購入について

「インターネット購入」の利用が増加したと回答した方を男女別・年代別にみると、各年代で男性の割合が女性より高く、特に男性の30代、60代、70代で高い割合となった。また、「インターネット購入」または「テイクアウトでの購入」の利用が増加したと回答した方に、その購入方法の印象を聞いたところ、いずれも6～7割の者が「悪くない（今後も続けるだろう）」と回答した。

【男女年代別 「インターネット購入が増えた」回答者の割合】（図7で「インターネット」を選択した方）



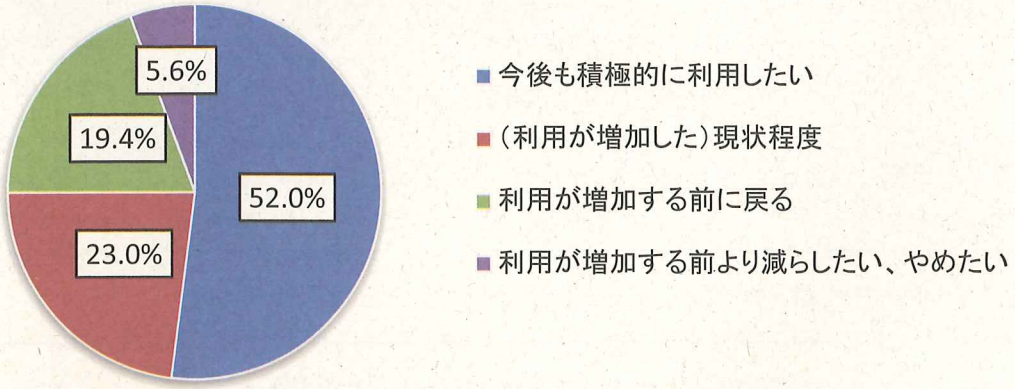
【利用が増えた購入方法の印象（インターネット/テイクアウト）】（図7で「インターネット」、「テイクアウト」を選択した人）



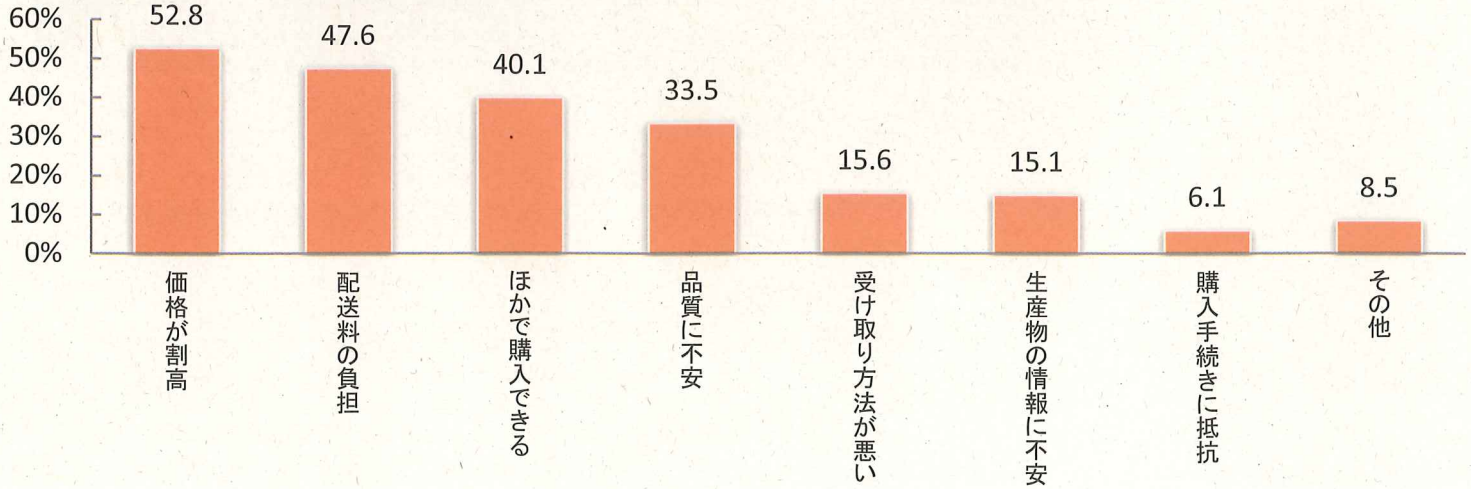
・インターネット購入の利用が増加した方を対象に、インターネットでの食品の購入先を聞いたところ、「ネットショップ」(47.4%)が最も多く、「量販店のネット注文」(19.4%)、「生産者の直販」(16.8%)と続いた。
・農林水産物(生鮮加工品等)の購入に限定すると、「ネットショップ」(30.1%)が最も多く、「量販店のネット注文」(21.9%)、「生産者の直販」(20.4%)となった。また、インターネット購入が増加した方のうち52.0%が「今後も積極的に利用したい」と回答。
・インターネット購入の利用に変化がなかった方のうち、「今後も購入しない」または「利用したことはあるが元の方法に戻したい」と回答した方に、その理由を聞いたところ、「価格が割高(52.8%)」、「配送料の負担(47.6%)」、「他で購入できる(40.1%)」、「品質に不安(33.5%)」の順となった。

【インターネットを利用して購入した先】

【インターネットでの食料品購入について】
(インターネット購入が増えた(図7で「インターネット」を選択した)方



【インターネット購入を利用しない理由】
(インターネット購入が増えなかった(図7で「インターネット」を選択しなかった62%の)方のうち、
「今後も購入しない」「元の購入方法に戻したい」と回答した方)

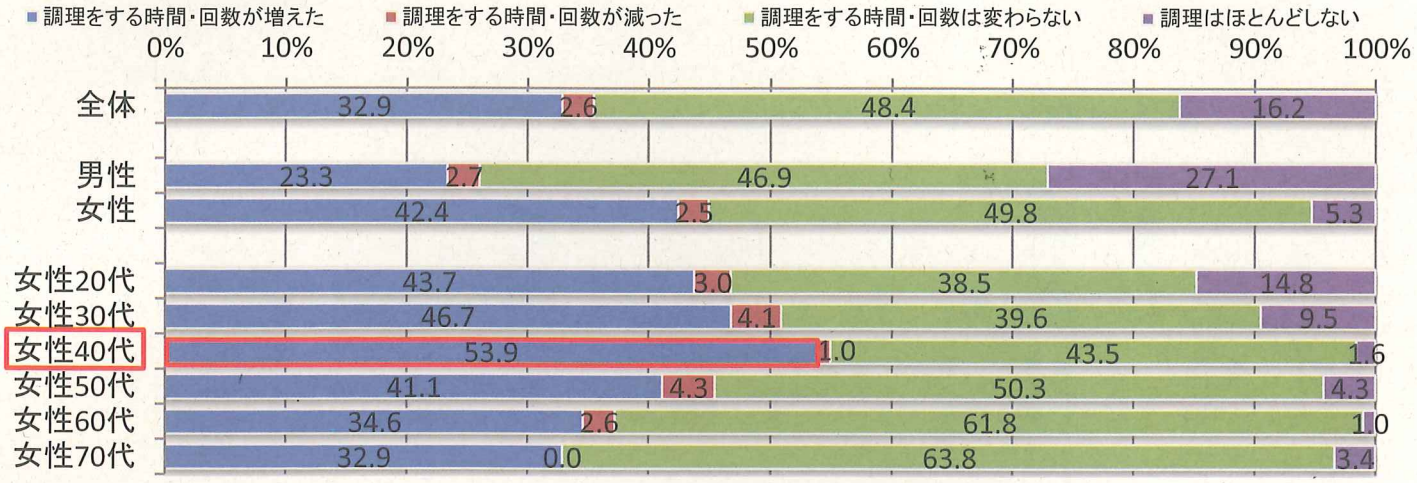


5 コロナ下での調理方法の変化に関する調査（特別設問）

図9 新型コロナウイルスの影響による、自宅での調理時間や回数の変化

・コロナ下での調理時間、回数の変化を聞いたところ、全体の32.9%、女性の42.4%が「調理をする時間・回数が増えた」と回答した。中でも、40代女性は「増えた」が53.9%と、半数以上が「増えた」と回答した。

【自宅での調理時間や回数の変化】（全体・男女別・女性年代別）



以下は、自宅での調理時間や回数が「増えた」と回答した人に伺いました。

図10 「健康」、「節約」、「手間」、「食材へのこだわり」への配慮について

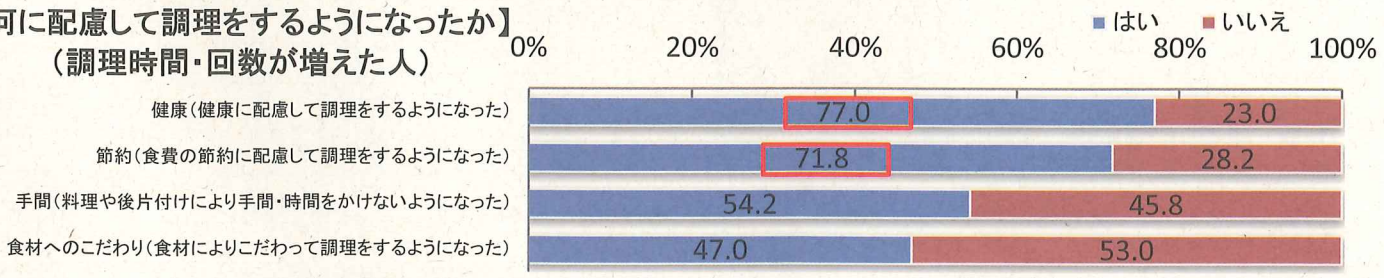
・自宅での調理時間や回数が「増えた」と回答した方を対象に、「健康」、「節約」、「手間」、「食材へのこだわり」を聞いたところ、7割以上が「健康（77.0%）」と「食費の節約（71.8%）」に配慮して調理するようになったとの回答となった。

・「健康」と回答した方の具体的な行動変化を男女別にみると、女性の「保存食品購入」（44.3%）、「新メニューも料理」（33.3%）が男性の回答を大きく上回った。また、女性の行動変化を年代別にみると、30代～50代では「保存食品購入」、60代、20代、と70代で「生鮮素材購入」、70代では「新メニューも料理」が高くなった。

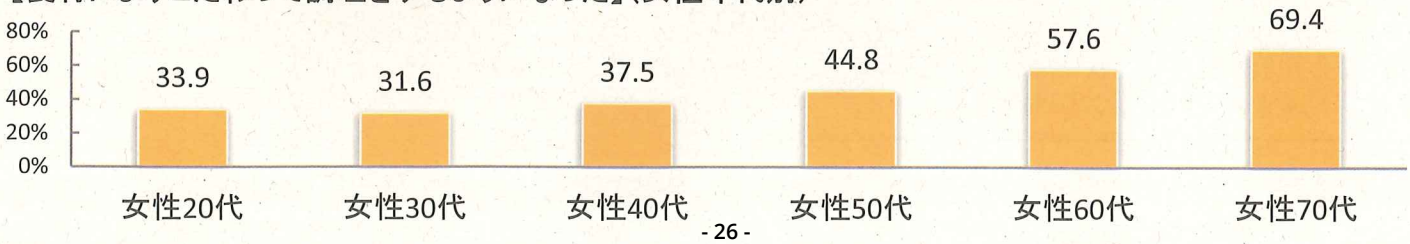
・「節約」と回答した方の具体的な行動変化は、女性の20代は「大容量でまとめ購入」が最も高く、30代～70代で「保存食品購入」が最も高くなった。2番目に高い項目は、30代～50代では「大容量でまとめ購入」、60代～70代では「新メニューも料理」となった。

・「食材へのこだわり」（47.0%）は、女性において、年代が上がるほど高くなる傾向となった。

【何に配慮して調理をするようになったか】
（調理時間・回数が増えた人）

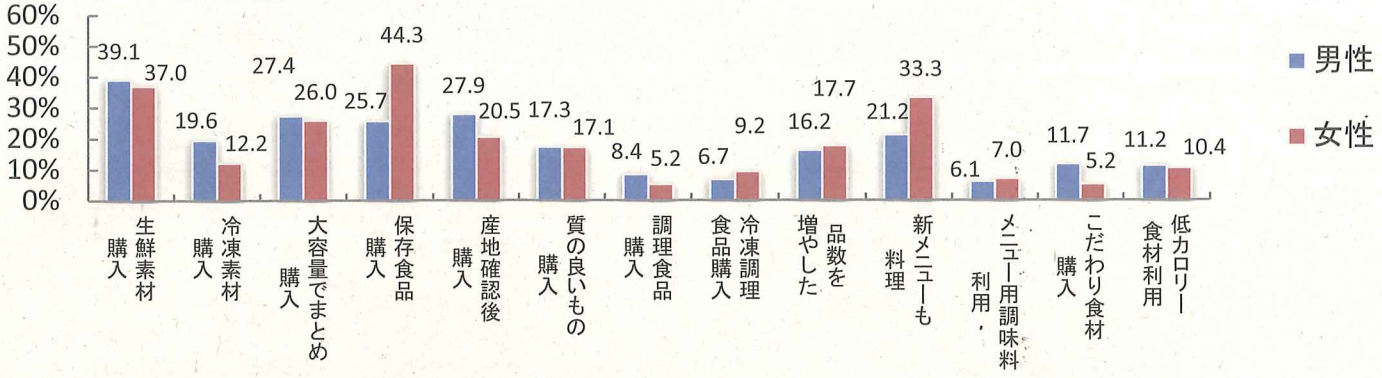


【食材によりこだわって調理をするようになった】（女性年代別）

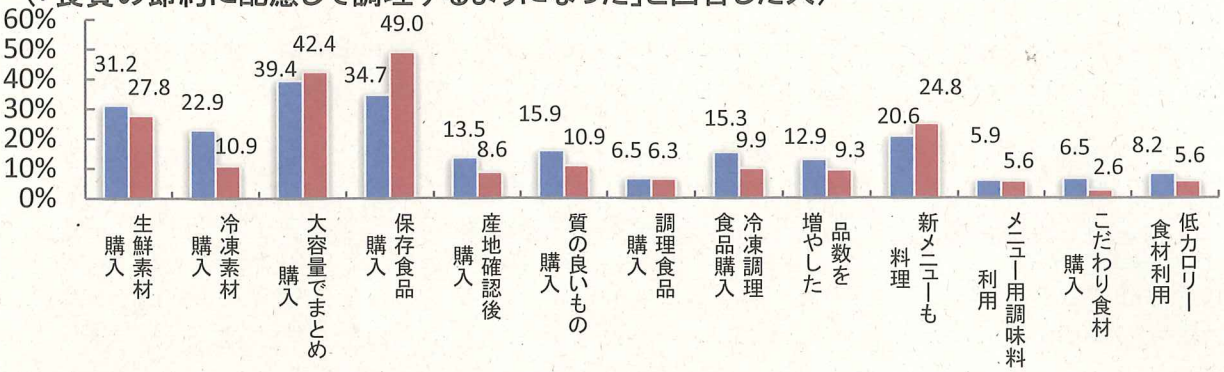


【男女別　具体的な行動変化】

（「健康に配慮して調理するようになった」と回答した人）

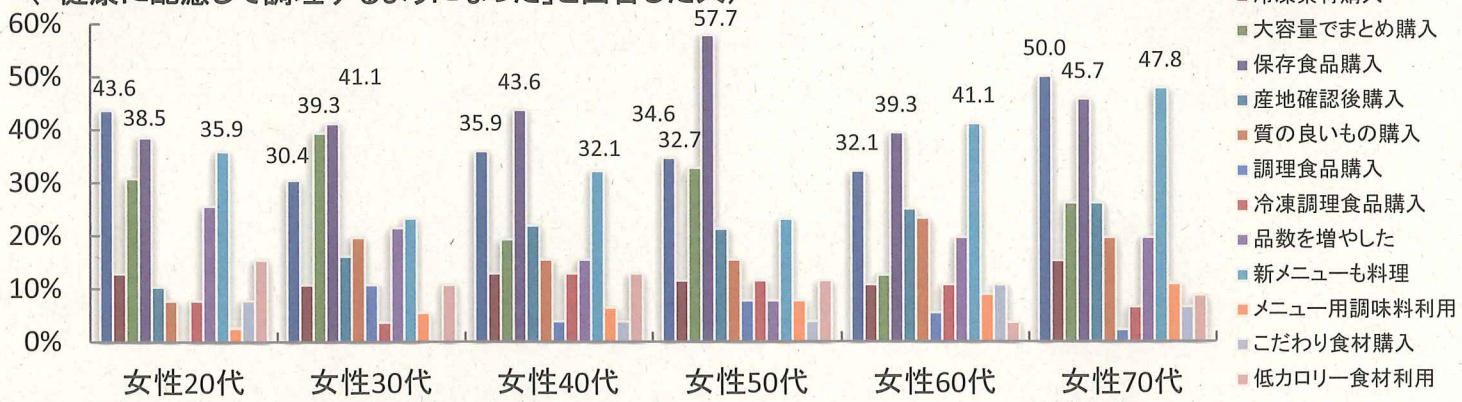


（「食費の節約に配慮して調理するようになった」と回答した人）



【女性年代別　具体的な行動変化】

（「健康に配慮して調理するようになった」と回答した人）



（「食費の節約に配慮して調理するようになった」と回答した人）

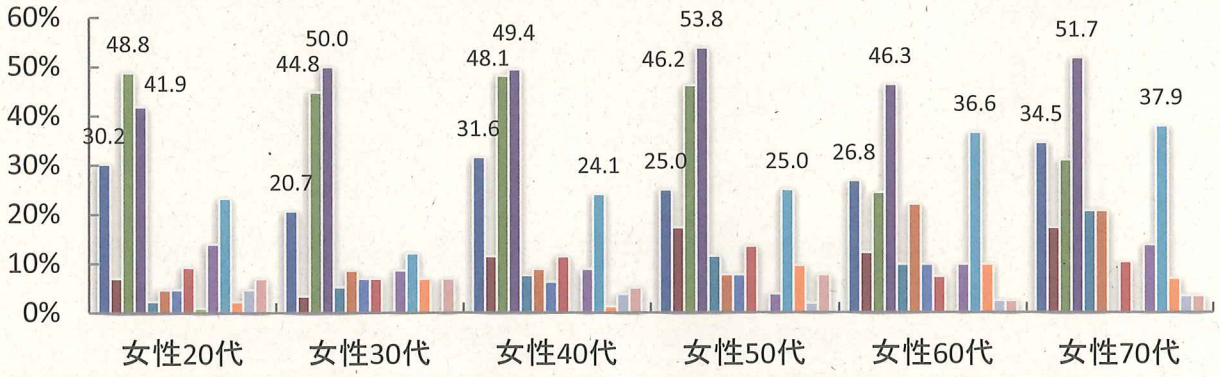
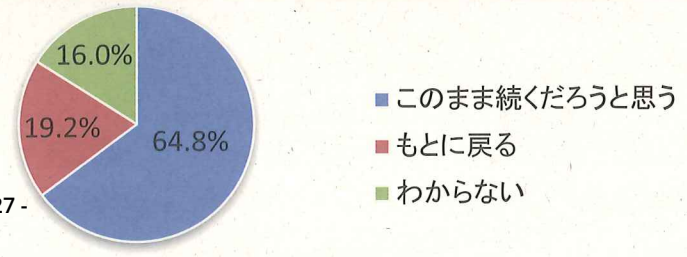


図11　今後の調理時間や回数はどうなると思うか（調理をする時間・回数が増えた人）

「このまま続くだろうと思う」と答えた者が6割を超えた。「もとに戻る」は2割未満となった。



Ⅰ．令和２（２０２０）年７月　全国イカ水揚集計表（全漁連）

単 月　7月　　単位　数量：トン　単価：円／ｋｇ

種　類	２０２０年７月						２０１９年７月					
	生鮮		冷凍		合計		生鮮		冷凍		合計	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
スルメイカ	**3,584**	**525**	**311**	**619**	**3,894**	**532**	**3,140**	**510**	**513**	**605**	**3,653**	**524**
NZイカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ＳＡイカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アカイカ	0	0	3,390	387	3,390	387	0	0	3,658	505	3,658	505
ペルー赤イカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他イカ（トビイカ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小　計	3,584	525	3,701	406	7,284	465	3,140	510	4,171	517	7,311	514
輸　入					8,068						7,527	
合　計	3,584		3,701		15,352		3,140		4,171		14,838	

累 計　1月～7月　　単位　数量:トン　単価:円/Kg

種　類	２０２０年１月～７月						２０１９年１月～７月					
	生鮮		冷凍		合計		生鮮		冷凍		合計	
	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価	数量	単価
スルメイカ	**11,845**	**533**	**1,374**	**930**	**13,219**	**574**	**8,516**	**551**	**1,523**	**664**	**10,038**	**568**
NZイカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
ＳＡイカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
アカイカ	4	222	3,468	389	3,472	388	4	261	3,692	506	3,696	505
ペルー赤イカ	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
その他イカ（トビイカ）	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
小　計	11,849	533	4,842	543	16,691	535	8,520	551	5,215	552	13,734	551
輸　入					46,814						46,767	
合　計	11,849		4,842		63,505		8,520		5,215		60,501	

資料:全漁連,財務省貿易統計

Ⅱ.いか輸入　国別通関実績　令和２（２０２０）年８月

（１）冷凍いか（除くもんごう）

国名		令和２年８月合計		令和２年１月～８月累計		令和元年８月合計		令和元年１月～８月累計	
		数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円
1	韓国	1,228	1,725	130,646	114,719	48,375	37,397	255,277	212,504
2	中国	3,364,141	1,949,049	27,725,171	17,492,381	4,030,284	2,276,678	29,111,641	17,406,187
3	台湾	0	0	72,340	33,499	0	0	826,358	557,647
4	香港	0	0	0	0	0	0	0	0
5	ベトナム	255,552	276,611	1,942,002	2,029,711	245,434	259,000	2,002,843	2,074,588
6	タイ	70,223	88,227	1,432,392	1,972,779	136,841	191,327	1,252,799	1,815,281
7	マレーシア	5,856	6,725	42,599	40,768	320	234	68,787	76,777
8	フィリピン	97,722	120,981	626,262	778,136	55,160	76,199	786,130	1,130,219
9	インドネシア	44,795	54,249	319,254	365,953	48,640	55,098	425,964	536,451
10	カンボジア	0	0	0	0	0	0	0	0
11	ミャンマー	39,221	58,781	142,314	170,810	7,508	5,068	63,755	74,751
12	インド	101,778	102,753	805,846	886,793	168,879	190,763	920,873	1,079,075
13	パキスタン	0	0	1,994	3,803	2,915	3,473	8,039	9,808
14	スリランカ	0	0	139,518	161,980	17,122	16,160	229,002	254,675
15	イラン	0	0	0	0	0	0	0	0
16	オマーン	0	0	0	0	0	0	0	0
17	デンマーク	0	0	0	0	0	0	0	0
18	英国	0	0	0	0	0	0	0	0
19	フランス	0	0	0	0	0	0	0	0
20	スペイン	0	0	0	0	0	0	97,986	32,451
21	ロシア	43,110	38,508	2,369,707	1,136,415	0	0	43,780	10,608
22	ギリシャ	0	0	0	0	0	0	0	0
23	アメリカ	309,894	124,166	2,787,529	1,170,835	431,350	130,016	2,289,913	816,049
24	メキシコ	0	0	0	0	0	0	0	0
25	パナマ	0	0	0	0	0	0	0	0
26	カナダ	0	0	156,560	54,768	0	0	0	0
27	セントビンセント	0	0	0	0	0	0	0	0
28	エクアドル	0	0	0	0	23,500	5,620	23,500	5,620
29	ペルー	1,993,592	463,798	6,506,887	1,683,115	1,845,811	521,312	11,309,257	2,812,612
30	チリ	1,529,835	346,346	7,241,101	1,686,756	1,138,751	321,814	1,815,161	576,726
31	ウルグアイ	0	0	0	0	0	0	0	0
32	アルゼンチン	983,318	476,818	2,653,339	1,252,478	2,587	1,560	2,967,615	1,118,666
33	フォークランド諸島及びその付属諸島	0	0	127,803	105,468	48,542	14,071	203,680	141,244
34	モロッコ	4,872	4,876	115,996	155,288	0	0	43,676	67,392
35	カナリー諸島（西）	0	0	0	0	0	0	0	0
36	モーリタニア	0	0	0	0	0	0	0	0
37	ガーナ	0	0	0	0	0	0	0	0
38	セネガル	0	0	0	0	22,948	7,788	22,948	7,788
39	ソマリア	0	0	0	0	0	0	0	0
40	南アフリカ共和国	0	0	0	0	0	0	16,347	19,312
41	オーストラリア	0	0	0	0	0	0	0	0
42	パプアニューギニア	0	0	0	0	0	0	0	0
43	ニュージーランド	1,200	1,643	320,871	140,942	63,000	29,776	319,164	160,846
合　計		**8,846,337**	**4,115,256**	**55,660,131**	**31,437,397**	**8,337,967**	**4,143,354**	**55,104,495**	**30,997,277**

Ⅱ.いか類輸入　国別通関実績　令和２（２０２０）年８月

（２）乾燥・塩蔵・塩水漬け

国　名		令和２年８月合計		令和２年１月～８月累計		令和元年８月合計		令和元年１月～８月累計	
		数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円
1	韓国	0	0	0	0	0	0	0	0
2	中国	200,439	382,775	1,391,945	2,738,493	322,810	712,616	1,383,758	2,824,854
3	台湾	0	0	0	0	0	0	0	0
4	ベトナム	0	0	0	0	0	0	0	0
5	タイ	1,790	7,924	53,710	270,117	5,210	22,504	41,220	185,428
6	フィリピン	0	0	0	0	0	0	5,000	2,699
7	インドネシア	0	0	5,485	29,981	0	0	0	0
8	スペイン	0	0	95	540	0	0	39	516
9	イタリア	0	0	0	0	0	0	0	0
10	カナダ	0	0	0	0	0	0	0	0
11	アメリカ	0	0	18,032	36,653	0	0	9,670	19,786
12	メキシコ	0	0	0	0	0	0	0	0
13	ロシア	0	0	0	0	0	0	0	0
14	ペルー	12,880	18,578	49,120	69,027	0	0	330	479
15	アルゼンチン	0	0	0	0	0	0	11,290	24,575
16	ニュージーランド	0	0	590	4,530	120	1,171	615	4,358
合　計		**215,109**	**409,277**	**1,518,977**	**3,149,341**	**328,140**	**736,291**	**1,451,922**	**3,062,695**

Ⅱ.いか類輸入　国別通関実績　令和２（２０２０）年８月

（２）乾燥・塩蔵・塩水漬け

国　名		令和２年８月合計		令和２年１月～８月累計		令和元年８月合計		令和元年１月～８月累計	
		数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円
1	韓国	0	0	0	0	0	0	0	0
2	中国	200,439	382,775	1,391,945	2,738,493	322,810	712,616	1,383,758	2,824,854
3	台湾	0	0	0	0	0	0	0	0
4	ベトナム	0	0	0	0	0	0	0	0
5	タイ	1,790	7,924	53,710	270,117	5,210	22,504	41,220	185,428
6	フィリピン	0	0	0	0	0	0	5,000	2,699
7	インドネシア	0	0	5,485	29,981	0	0	0	0
8	スペイン	0	0	95	540	0	0	39	516
9	イタリア	0	0	0	0	0	0	0	0
10	カナダ	0	0	0	0	0	0	0	0
11	アメリカ	0	0	18,032	36,653	0	0	9,670	19,786
12	メキシコ	0	0	0	0	0	0	0	0
13	ロシア	0	0	0	0	0	0	0	0
14	ペルー	12,880	18,578	49,120	69,027	0	0	330	479
15	アルゼンチン	0	0	0	0	0	0	11,290	24,575
16	ニュージーランド	0	0	590	4,530	120	1,171	615	4,358
合　計		**215,109**	**409,277**	**1,518,977**	**3,149,341**	**328,140**	**736,291**	**1,451,922**	**3,062,695**

Ⅱ．いか類輸入　国別通関実績　令和２（２０２０）年８月

（3）調製品

国　名		令和２年８月合計		令和２年 １月～８月累計		令和元年８月合計		令和元 １月～８月累計	
		数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円	数量ｋｇ	金額千円
1	韓国	5,120	7,697	43,657	67,557	13,710	12,234	31,483	34,933
2	中国	3,441,754	2,179,657	26,174,660	16,348,990	3,523,191	2,059,099	28,561,700	17,577,601
3	台湾	0	0	0	0	0	0	0	0
4	ベトナム	77,735	53,574	516,216	321,316	80,367	43,739	706,317	408,504
5	タイ	43,694	72,706	298,363	810,605	26,228	61,409	238,113	741,275
6	シンガポール	0	0	0	0	0	0	0	0
7	マレーシア	0	0	4,130	1,989	0	0	0	0
8	フィリピン	0	0	0	0	0	0	450	346
9	インドネシア	0	0	20,504	10,713	0	0	0	0
10	ミャンマー	0	0	0	0	0	0	3,928	1,888
11	インド	0	0	8,040	4,339	17,510	8,813	25,520	13,149
12	スリランカ	0	0	0	0	0	0	0	0
13	ノルウェー	0	0	0	0	0	0	0	0
14	スイス	0	0	0	0	0	0	0	0
15	ポルトガル	0	0	0	0	0	0	0	0
16	スペイン	1,114	1,612	6,527	15,187	874	2,602	9,117	22,735
17	イタリア	0	0	0	0	0	0	0	0
18	アメリカ	0	0	0	0	0	0	0	0
19	メキシコ	0	0	0	0	0	0	0	0
20	ペルー	625,388	337,065	1,151,587	576,397	586,768	306,462	3,225,389	1,643,273
21	チリ	2,040	1,003	2,040	1,003	0	0	0	0
22	アルゼンチン	0	0	0	0	0	0	0	0
23	オーストラリア	0	0	0	0	0	0	0	0
24	ニュージーランド	0	0	0	0	0	0	0	0
合　計		**4,196,845**	**2,653,314**	**28,225,724**	**18,158,096**	**4,248,648**	**2,494,358**	**32,802,017**	**20,443,704**

Ⅲ．農林水産統計

１.産地水産物流通統計　令和元（２０２０）年７月

（１）月別上場水揚量・価格

年　月	するめいか 生		するめいか 冷・近		するめいか 冷・遠		あかいか 生		あかいか 冷		合計
	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	上場 水揚量	価格	
平成25(2013)年	77,908	253	28,533	349	705	238	29	112	2,196	422	109,371
平成26(2014)年	73,793	249	24,932	337	157	331	0	184	4,652	348	103,534
平成27(2015)年	54,196	257	22,295	378	484	279	2	244	2,995	318	79,972
平成28(2016)年	23,657	519	19,912	641	797	398	2	249	3,162	479	47,530
平成29(2017)年	18,699	543	17,055	602	—	—	7	333	4,112	541	39,873
平成30(2018)年	15,141	530	11,133	611	—	—	1	355	4,632	481	30,907
令和元(2019)年	16,772	657	2,545	875	—	—	5	220	7,152	455	26,474
平成28年　１月	1,233	323	1,948	429	—	—	0	67	3	391	3,184
平成28年　２月	789	360	1,144	465	—	—	1	192	—	—	1,934
平成28年　３月	731	397	1,297	488	—	—	1	281	3	233	2,029
平成28年　４月	375	417	—	—	—	—	0	234	—	—	375
平成28年　５月	518	350	50	518	797	398	0	216	—	—	1,365
平成28年　６月	904	325	37	380	—	—	—	—	—	—	941
平成28年　７月	1,243	382	1,911	410	—	—	0	216	1,272	413	4,426
平成28年　８月	3,953	425	2,316	508	—	—	0	216	1,882	525	8,151
平成28年　９月	7,419	471	1,807	657	—	—	0	214	1	124	9,227
平成28年　１０月	3,064	716	2,781	786	—	—	0	290	—	—	5,845
平成28年　１１月	1,736	854	3,327	899	—	—	0	264	0	454	5,063
平成28年　１２月	1,618	823	3,293	731	—	—	0	323	1	188	4,912
計	23,583		19,911		797		2		3,162		47,452
平成29年　１月	410	692	958	752	—	—	0	251	1	570	1,369
平成29年　２月	279	602	231	835	—	—	0	441	39	486	549
平成29年　３月	190	525	376	840	—	—	0	383	482	582	1,048
平成29年　４月	109	442	28	863	—	—	1	184	0	398	138
平成29年　５月	272	386	23	857	—	—	0	108	13	539	308
平成29年　６月	1,399	429	7	536	—	—	—	—	—	—	1,406
平成29年　７月	2,606	515	1,455	480	—	—	—	—	1,684	557	5,745
平成29年　８月	2,780	583	2,335	632	—	—	5	333	1,892	517	7,012
平成29年　９月	4,225	568	3,060	633	—	—	0	236	—	—	7,285
平成29年　１０月	3,378	556	4,928	572	—	—	0	192	0	383	8,306
平成29年　１１月	1,693	509	2,369	545	—	—	0	417	0	415	4,062
平成29年　１２月	1,362	546	1,286	598	—	—	0	525	0	443	2,648
計	18,703		17,056		0		6		4,111		39,876
平成30年　１月	744	539	330	659	—	—	0	414	—	—	1,074
平成30年　２月	399	439	864	649	—	—	0	350	621	532	1,884
平成30年　３月	200	487	18	600	—	—	0	340	4	438	222
平成30年　４月	186	421	8	600	—	—	0	256	0	385	194
平成30年　５月	308	390	62	663	—	—	0	358	—	—	370
平成30年　６月	884	420	21	594	—	—	—	—	96	428	1,001
平成30年　７月	867	455	519	539	—	—	—	—	3,124	466	4,510
平成30年　８月	1,288	540	1,105	573	—	—	—	—	605	518	2,998
平成30年　９月	4,219	493	3,527	588	—	—	—	—	182	458	7,928
平成30年　１０月	2,641	591	2,324	597	—	—	0	719	0	387	4,965
平成30年　１１月	2,226	609	1,087	649	—	—	0	324	—	—	3,313
平成30年　１２月	1,191	584	1,268	694	—	—	0	251	0	343	2,459
計	15,153		11,133		0		0		4,632		30,918
平成31年　１月	382	580	192	685	—	—	0	140	—	—	574
平成31年　２月	525	534	658	697	—	—	0	220	34	529	1,217
平成31年　３月	302	551	2	761	—	—	2	245	—	—	306
平成31年　４月	193	578	—	—	—	—	2	268	—	—	195
令和元年　５月	220	382	—	—	—	—	—	—	—	—	220
令和元年　６月	596	395	—	—	—	—	0	393	—	—	596
令和元年　７月	1,090	458	380	608	—	—	0	5	3,658	505	5,128
令和元年　８月	2,277	507	50	801	—	—	—	—	4	602	2,331
令和元年　９月	2,999	646	483	939	—	—	0	77	3,028	396	6,510
令和元年　１０月	2,142	836	117	1,033	—	—	0	123	425	430	2,684
令和元年　１１月	4,237	788	248	1,277	—	—	0	117	—	—	4,485
令和元年　１２月	1,810	665	415	1,137	—	—	0	22	3	405	2,228
計	16,773		2,545		0		4		7,152		26,474
令和２年　１月	645	626	170	1,094	—	—	0	22	20	424	835
令和２年　２月	399	536	291	1,034	—	—	0	182	11	443	701
令和２年　３月	397	535	440	1,035	—	—	4	183	48	488	889
令和２年　４月	179	510	—	—	—	—	4	250	—	—	183
令和２年　５月	1,034	333	—	—	—	—	1	260	—	—	1,035
令和２年　６月	879	335	27	516	—	—	1	179	—	—	907
令和２年　７月	828	508	3	674	—	—	0	133	3,390	387	4,221
計	4,361		931		0		10		3,469		8,771
対前月比(%)	94	152	11	131	—	—	1	75	—	—	465
対前年同月比(%)	76	111	1	111	—	—	400	2,964	93	77	82

注１：平成２２年１月分調査より、あかいかが調査対象品目となりました。
注２：平成２２年１月分調査より、調査対象漁港数から調査対象市場数に変更
注３：平成２１年度分については調査対象市場数に変更済みです。

Ⅲ. 農林水産統計

１．産地別水産物流通統計　令和元（２０２０）年７月

（２）累積上場水揚量・価格

単位　水揚量：トン　　価格：1kg当たり円

品　　目	累積の上場水揚量			累積の平均価格		
	2020年 １月～７月	2019年 １月～７月	対前年 同期比（%）	2020年 １月～７月	2019年 １月～７月	対前年 同期比（%）
するめいか（生）	4,361	3,296	132	454	485	94
〃　（冷,近海）	931	1,232	76	1029	668	154
〃　（冷,遠洋）	－	－	－	－	－	－
あかいか（生）	11	5	229	212	244	87
あかいか（冷）	3,469	3,692	94	389	506	77
合　計	8,772	8,225	107			

注１：平成２２年１月分調査より、あかいかが調査対象品目となりました。

Ⅲ．農林水産統計

１．産地別水産物流通統計　令和元（２０２０）年７月

（３）漁港別水揚量・価格（令和２年７月）

漁港		するめいか 生		するめいか 冷、近海		するめいか 冷、遠洋		あかいか 生		あかいか 冷		水揚量
		水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	水揚量	価格	合　計
1	**函館**	**33**	**981**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**33**
2	小樽	46	685	—	—	—	—	—	—	—	—	46
3	**釧路**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**0**
4	稚内	25	719	—	—	—	—	—	—	—	—	25
5	紋別	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
6	網走	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
7	**羅臼**	**0**	**185**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**0**
8	根室	0	385	—	—	—	—	—	—	—	—	0
9	歯舞	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
10	**八戸**	**304**	**465**	**3**	**674**	**—**	**—**	**—**	**—**	**3,390**	**387**	**3,697**
11	**宮古**	**6**	**656**	**—**	**—**	**—**	**—**	**0**	**133**	**—**	**—**	**6**
12	**大船渡**	**16**	**634**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**16**
13	**釜石**	**25**	**335**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**25**
14	**気仙沼**	**1**	**932**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**1**
15	**女川**	**4**	**202**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**4**
16	**石巻**	**11**	**154**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**11**
17	塩釜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
18	小名浜	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
19	大津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
20	波崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
21	**銚子**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**0**
22	勝浦（千葉）	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
23	三崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
24	沼津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
25	焼津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
26	**新潟**	**224**	**494**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**224**
27	**小木（石川）**	**54**	**560**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**54**
28	**奈屋浦**	**1**	**406**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**1**
29	舞鶴	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
30	勝浦	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
31	串本	0	700	—	—	—	—	—	—	—	—	0
32	**境**	**1**	**189**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**1**
33	**浜田**	**4**	**392**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**4**
34	**下関**	**1**	**488**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**1**
35	**八幡浜**	**47**	**449**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**47**
36	**福岡**	**1**	**405**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**1**
37	**唐津**	**0**	**364**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**0**
38	**松浦**	**13**	**257**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**13**
39	**長崎**	**5**	**353**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**5**
40	**佐世保**	**5**	**205**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**5**
41	鶴見	0	541	—	—	—	—	—	—	—	—	0
42	北浦	0	175	—	—	—	—	—	—	—	—	0
43	油津	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
44	枕崎	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
45	山川	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
46	鹿児島	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	0
47	**那覇**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**—**	**0**
合計		828	508	3	674	—	—	0	133	3,390	387	4,221

—：事実のないもの　…：事実不詳又は調査を欠くもの　0：単位に満たないもの（例：0.4t→0t）　＊：訂正数値

Ⅲ．農林水産統計

２．冷蔵水産物流通統計　令和元（２０２０）年７月

月間入・出庫量及び月末在庫量

単位：トン

品　　目	令和２年７月 月末在庫量			令和２年７月 月間入庫量			令和２年７月 月間出庫量			令和２年７月 月末在庫量			７月末 在庫量	対前年同月比		
	計	産地	消費地	計	産地	消費地	計	産地	消費地	計	産地	消費地	前月比 %	月間 入庫量	月間 出庫量	月末 在庫量
するめいか （まついかを含む）	**10,211**	**7,548**	**2,663**	**2,472**	**1,819**	**653**	**2,204**	**1,503**	**701**	**10,479**	**7,864**	**2,615**	**103**	**98**	**81**	**116**
こういか （もんごういかを含む）	2,751	308	2,444	753	120	634	885	81	804	2,620	346	2,274	95	59	83	77
その他のいか類	19,475	4,797	14,678	6,627	2,445	4,182	4,897	1,319	3,578	21,205	5,923	15,282	109	100	83	99
合　　計	32,437	12,653	19,785	9,851	4,384	5,468	7,985	2,904	5,082	34,303	14,133	20,170	106	95	82	101

注：「対前年同月比」は、前年同月より引き続き調査を行っている工場のみで算出しています。

全国いか組合報第628号 (B)
（非売品）

編集・発行　全国いか加工業協同組合
住　　所　〒113-0034
文京区湯島3丁目14番8号 加田湯島ビル6階
電　　話　03-3834-3731
F　A　X　03-3834-3735
発 行 日　令和2年10月1日
作成協力　株式会社マイトベーシックサービス